南陽市遺跡分布調査報告書（9）

市内遺跡分布調査
第三次長岡南森遺跡確認調査（概報）

2021年3月

南陽市教育委員会

南陽市埋蔵文化財調査報告書第二十二集
南陽市遺跡分布調査報告書(9)
第三次長岡南森遺跡確認調査（概報）
南陽市教育委員会

南陽市遺跡分布調査報告書（9）

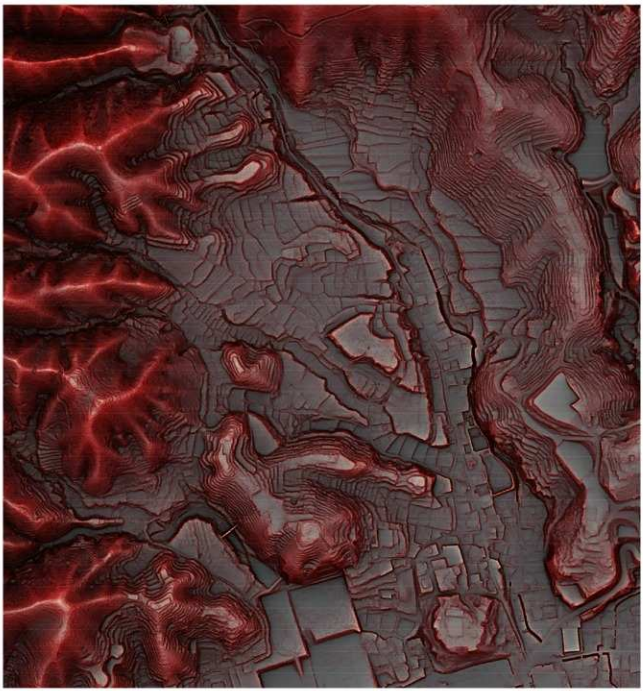
南陽市埋蔵文化財調査報告書第 22 集
市内遺跡分布調査
第三次長岡南森遺跡確認調査（概報）

令和３年３月

南陽市教育委員会

長岡南森遺跡周辺の風景（稲荷森古墳から撮影）

巻頭写真1



宮沢城跡及び周辺赤色立体図

巻頭写真 2

序

この度、「南陽市遺跡分布調査報告書（9）」を発行する運びとなりました。本書は、南陽市教育委員会が、令和２年度に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等事業）として、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るために実施した踏査、試掘調査、工事立会等の分布調査の成果の他、大型古墳の可能性がある長岡南森遺跡の第３次確認調査の成果概要をまとめたものです。

現在、新型コロナウイルス感染症により、世界的にも様々な面で大きな影響が生じておりますが、今年度の埋蔵文化財調査も例外ではありませんでした。調査に伴いマスク着用や手洗い、ソーシャルディスタンスの確保などの感染症対策を講じながらの制約の多い調査となりました。新型コロナウイルス感染症の早期の収束を切に願うところです。

本市は、肥沃な農地が多く葡萄やさくらんぼなどの果樹栽培や稲作が盛んであり、また市内赤湯地区を中心に豊富な温泉が湧き、米沢藩（上杉家）との関わりも深い土地であります。市内全域には、旧石器時代から中世に至るまで数多くの遺跡がございます。

遺跡は、その土地や地域の歴史を明らかにする貴重な宝です。この宝は、世代を越えて歴史と文化を伝え、故郷を愛する心やそこに生きる人々の誇りを育む心の糧となるものであり、大切に守っていかなければなりません。

近年の開発事業の傾向としては、大規模開発は減少しているものの、集合住宅や個人住宅建設、宅地分譲地の造成等、市民に身近なところでの開発は継続しております。埋蔵文化財保護と各種開発との調整は日常的な業務となり、その積み重ねが地域の歴史の解明へとつながっていきます。引き続き市民の皆様の御理解と御協力、ならびに関係各位の御指導をお願いいたします。

結びになりますが、本報告書作成にあたり、各種調査に御指導と御協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和３年３月

南陽市教育委員会
教育長　長濱　洋美

目　次

市内遺跡分布調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的と概要……　1

2　調査方法……　1

Ⅱ　踏査

1　北町遺跡・上野山古墳群（大沢山支群）……　7

2　鷹戸山館跡・鷹戸山東館跡・北日影館跡・日影小館跡……　8

3　池黒地区……　10

4　新田字五十匁……　11

5　割田館跡……　12

Ⅲ　試掘調査

1　鍋田字水上……　14

2　久保遺跡……　15

3　東六角遺跡……　16

4　二色根・三間通地区……　18

5　宮内小学校地内遺跡隣地……　20

6　西中上遺跡……　21

7　中ノ目下遺跡……　22

8　横沢遺跡隣地……　24

9　西屋敷遺跡隣地……　26

10　郡山字石堰地内……　27

11　若狭郷屋字扇田地内……　29

12　矢の目館跡……　30

Ⅳ　立会調査

1　富貴田遺跡隣地……　31

2　月ノ木B遺跡……　32

3　中里遺跡……　33

4　馬場遺跡……　34

5　南陽市内携帯電話無線基地局設置地（8か所）……　35

6　岩屋堂遺跡……　37

7　蒲生田館跡……　38

8　長岡山東遺跡……　39

9　百刈田遺跡……　40

Ⅴ　補足

西原東遺跡（郡山遺跡群）……　41

Ⅵ　中世城館等測量調査

1　調査概要と目的……　43

2　調査方法……　43

3　測量方法と経過……　44

4　主な成果……　44

第三次長岡南森遺跡確認調査（概報）

Ⅰ　調査の経緯と目的……　53

Ⅱ　遺跡の位置と環境……　58

Ⅲ　調査の概要……　59

Ⅳ　遺物……　68

図　版

第１図　調査位置図（１）……２
第２図　調査位置図（２）……３
第３図　調査位置図（３）……４
第４図　調査位置図（４）……４
第５図　北町遺跡・大沢地区調査位置図……７
第６図　鷹戸山館跡・鷹戸山東館跡調査位置図……９
第７図　鷹戸山館跡・鷹戸山東館跡調査経路図……９
第８図　池黒地区調査位置図……10
第９図　新田字五十匁調査位置図……11
第 10 図　割田館跡調査位置図……12
第 11 図　割田館跡推測図……12
第 12 図　鍋田字水上調査位置図……14
第 13 図　鍋田字水上ピット柱状図……14
第 14 図　久保遺跡調査位置図……15
第 15 図　久保遺跡調査範囲図……15
第 16 図　久保遺跡トレンチ柱状図……15
第 17 図　東六角遺跡調査位置図……16
第 18 図　東六角遺跡調査範囲図……16
第 19 図　東六角遺跡トレンチ柱状図……16
第 20 図　二色根・三間通調査位置図……18
第 21 図　二色根調査ピット位置図……18
第 22 図　三間通調査ピット位置図……18
第 23 図　二色根・三間通地区調査ピット柱状図……19
第 24 図　宮内小学校地内遺跡調査位置図……20
第 25 図　宮内小学校地内遺跡調査範囲図……20
第 26 図　宮内小学校地内遺跡トレンチ柱状図……20
第 27 図　西中上遺跡調査位置図……21
第 28 図　西中上遺跡調査範囲図……21
第 29 図　西中上遺跡トレンチ柱状図……21
第 30 図　中ノ目下遺跡調査位置図……22
第 31 図　中ノ目下遺跡調査範囲図……22
第 32 図　中ノ目下遺跡柱状図……22
第 33 図　横沢遺跡調査位置図……24
第 34 図　横沢遺跡ピット柱状図……24
第 35 図　西屋敷地内調査位置図……26
第 36 図　西屋敷地内調査範囲図……26
第 37 図　西屋敷地内ピット柱状図……26
第 38 図　郡山字石堰地内調査位置図……27
第 39 図　郡山字石堰地内調査範囲図……27
第 40 図　郡山字石堰地内トレンチ柱状図……28
第 41 図　扇田地内調査位置図……29
第 42 図　扇田地内調査範囲図……29
第 43 図　扇田地内トレンチ柱状図……29
第 44 図　矢の目館跡調査位置図……30
第 45 図　矢の目館跡調査範囲図……30
第 46 図　矢の目館跡トレンチ柱状図……30
第 47 図　宮内字富貴田調査位置図……31
第 48 図　宮内字富貴田地内柱状図……31
第 49 図　月ノ木Ｂ遺跡調査位置図……32
第 50 図　月ノ木Ｂ遺跡柱状図……32
第 51 図　中里遺跡調査位置図……33
第 52 図　中里遺跡立会調査範囲図……33
第 53 図　中里遺跡立会調査坑柱状図……33
第 54 図　馬場遺跡立会調査位置図……34
第 55 図　基地局設置地柱状……35
第 56 図　携帯電話無線基地局調査位置図……36
第 57 図　岩屋堂遺跡位置図……37
第 58 図　岩屋堂遺跡柱状図……37
第 59 図　蒲生田館跡試掘調査位置図……38
第 60 図　長岡山東遺跡試掘調査地……39
第 61 図　長岡山東遺跡柱状図……39
第 62 図　百刈田遺跡試掘調査地……40
第 63 図　百刈田遺跡立会調査柱状図……40
第 64 図　西原東遺跡出土遺物……41
第 65 図　西原東遺跡遺構図……42
第 66 図　調査遺跡位置図……43
第 67 図　レーザー調査範囲図……44
第 68 図　北館略図……45
第 69 図　宮内南館跡略図……46
第 70 図　武道作山館跡略図……46
第 71 図　別所館跡略図……47
第 72 図　池黒館山館跡略図……48
第 73 図　天ケ澤館跡赤色立体図……48
第 74 図　長岡南森遺跡平面図……55
第 75 図　T1 － T3 トレンチ断面図……61
第 76 図　T4b トレンチ断面図……61
第 77 図　T4 トレンチ断面図……62
第 78 図　T5 トレンチ断面図……63
第 79 図　T6 トレンチ断面図……64
第 80 図　T7b トレンチ断面図……65
第 81 図　T7 トレンチ断面図……66
第 82 図　T7b 南区トレンチ断面図……67
第 83 図　T7c トレンチ断面図……67

表

表1　調査遺跡…… 5
表2　西原東遺物観察表……42
表3　グリッド数値……53

長岡南森遺跡確認調査写真図版

巻頭写真1　長岡南森遺跡周辺の風景
（稲荷森古墳から撮影）
巻頭写真2　赤色立体地図
写真図版1　稲荷森古墳からみる長岡南森遺跡現況・
長岡南森遺跡現況
写真図版2　T1-T3 調査状況
写真図版3　T4 調査状況
写真図版4　T4・T4b 調査状況
写真図版5　T5 調査状況
写真図版6　T6 調査状況
写真図版7　T7 調査状況
写真図版8　T7b 調査状況
写真図版9　T7b・c 調査状況
写真図版10　長岡南森遺跡出土遺物（1）
写真図版11　長岡南森遺跡出土遺物（2）

西原東遺跡出土遺物写真図版

写真図版12　西原東遺跡出土遺物

市内遺跡分布調査

本報告は、文化庁の補助を受けて令和２年度に南陽市教育委員会が実施した開発事業との調整、遺跡台帳（遺跡地図）整備に関する市内遺跡分布査報告である。

調査は、南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

凡　例

調　査　主　体	南陽市教育委員会社会教育課埋蔵文化財係	
調　査　期　間	令和２年４月１日から令和３年３月31日	
発掘調査担当者	社会教育課長	板垣幸広
	調　査　主　任	角田朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長）
	埋蔵文化財係主任	髙橋　徹
	埋蔵文化財係会計年度任用職員	斉藤紘輝
整理作業担当者	埋蔵文化財係会計年度任用職員	吉田江美子
	埋蔵文化財係会計年度任用職員	山田　渚

1　本報告書の執筆はⅠ～Ⅳは角田朋行・高橋徹・斎藤紘輝、Ⅴは吉田江美子、Ⅵは角田朋行が担当し、遺物整理作業・遺物写真撮影は山田渚、報告書デジタル編集・構成作業は吉田江美子、山田渚が担当した。

2　挿図の縮尺はスケールで示した。

3　本書で使用した遺構の分類記号は下記の通りである。

ＳＫ・・・掘立柱建物跡　　ＳＰ・・・ピット　　ＳＫ・・・土坑

ＴＴ・・・テストトレンチ　　ＴＰ・・・テストピット

4　写真図版は任意の縮尺で採録した。

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的と概要

今年度は、従来の住宅地造成と個人住宅建設に加え、携帯電話基地局の設置など各種開発との調整を図り、遺跡の保護のための試掘調査及び工事立会を実施した。

各種調査に伴い遺跡台帳整備も順調に進んでおり、成果が上がってきているが、未調査地域はまだ残されている。特に市域の７割を占める山間地や、古くからの住宅地も未調査地域が多い。また、周知の遺跡でも情報が少ない遺跡が存在するため、それらも含めて遺跡台帳整備のための分布調査を継続している。

周知の遺跡の中でも、古墳の可能性がある長岡南森遺跡については今年度が３年目の確認調査となり、次年度以降も継続する予定である。

令和２年４月から令和２年12月までの開発行為に伴う遺跡所在の有無に関する照会は計103件であった。直接的な対応を実施した件数は計31件であった。内訳は、踏査５件、試掘調査８件、工事立会18件である。試掘調査は、埋蔵文化財包蔵地及びその隣接地・分布調査未実施地において実施に努めた。工事立会は、工事面積が狭い場合、埋蔵文化財を破壊する恐れが少ないと判断した場合、及び分布調査未実施地において実施した。

2　調査方法

（1）踏査及び分布調査

踏査は、開発事業計画地の範囲内及びその周辺において実施し、遺跡の範囲と開発予定区域の平面的な関係を確認する調査である。主に周知の資料により、地形状況や従来の報告等の内容を確認している。GPS 付のカメラやスマートフォンを活用し、簡易な位置情報を記録しながら踏査した。遺跡台帳の整備を図るため重要遺跡の航空レーザー測量調査を行った。

（2）試掘調査

試掘調査は、埋蔵文化財の有無を確認するための部分的な発掘調査である。本市では遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握し、遺跡内容の把握を行う確認調査の側面も有する。調査予定地内にグリッドを設定のうえ試掘溝あるいは試掘坑を配し、表土を人力や重機で除去後、堆積土を人力で除去し、遺構の有無を確認した。

（3）工事立会

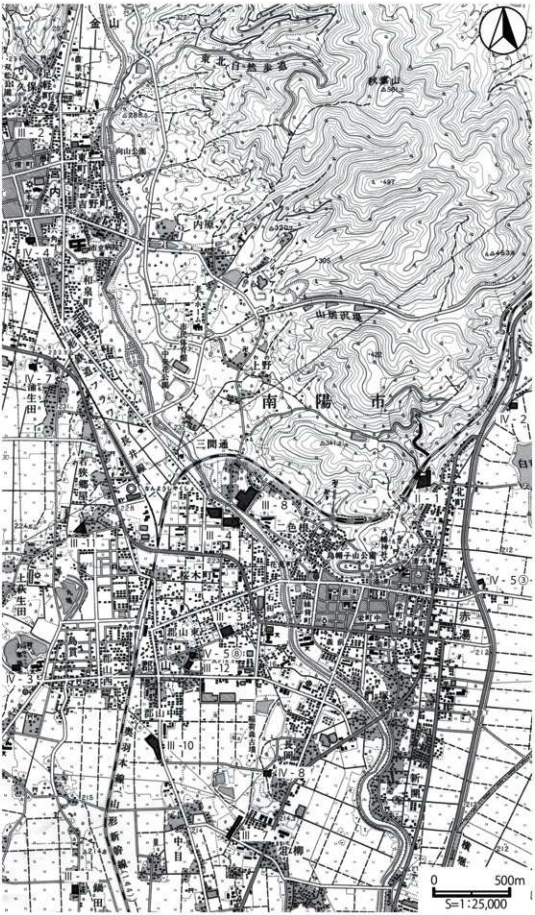
工事立会は、基本的に開発事業による遺跡への影響が軽微な場合に、工事施工に立ち会って実施し、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う調査である。工事の進捗にあわせ、土工事を行う際に立ち会いを行い、遺構・遺物の確認及び土層の確認を行った。掘削深度は工事の掘底面である。遺跡未確認地の場合も可能な限り工事立会を行い遺跡の把握に努めた。

（4）確認調査

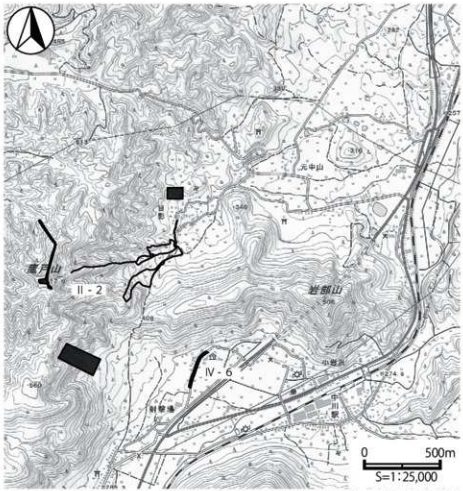
埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格内容等の概要を把握する部分的な発掘調査である。古墳の可能性を持つ重要遺跡である長岡南森遺跡について第３次調査を実施した。

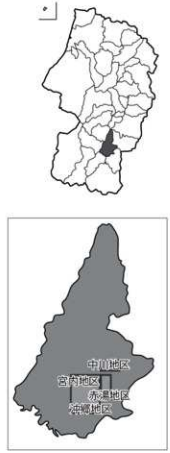
第1図　調査位置図（1）

国土地理院発行「赤湯」「羽前小松」2万5千分の1を使用

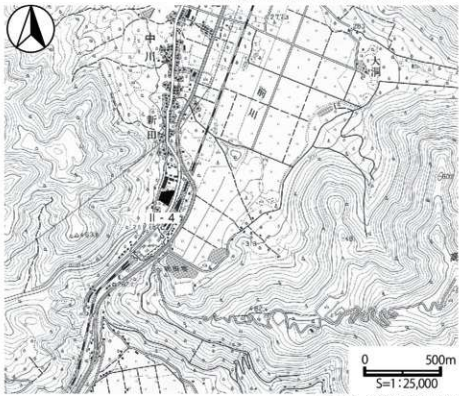


第２図　調査位置図（２）
国土地理院発行「赤湯」２万５千分の１を使用





第３図　調査位置図（３）
国土地理院発行「羽前中川」２万５千分の１を使用



第４図　調査位置図（４）

表１　調査遺跡

地区	事業区分	現場調査期間	遺跡名等	場所	区分	試掘結果等
赤湯	分布調査	令和２年１月10日	北町遺跡、大沢周辺	赤湯字新田、団子山、大沢一、大沢山	踏査	なし
赤湯	民間開発	令和２年３月19日	東六角遺跡	三間通字西藤田	試掘	なし
赤湯	民間開発	令和２年３月26日	未確認	二色根字面田	試掘	なし
赤湯	民間開発	令和２年３月26日	未確認	三間通字円蔵前	試掘	なし
赤湯	市道整備	令和２年４月30日	中ノ目下遺跡	俎柳及、中ノ目	試掘	土師器片、須恵器片、SP２基
赤湯	古墳確認調査	令和２年６月１日～８月６日	長岡南森遺跡	長岡字南森	本調査	概報参照
赤湯	市道整備	令和２年６月15日～17日	中ノ目下遺跡	俎柳、中ノ目	立会	なし
赤湯	市道整備	令和２年７月１日～７日	中ノ目下遺跡	俎柳、中ノ目	立会	なし
赤湯	民間開発	令和２年７月15日	月ノ木Ｂ遺跡	赤湯字中堀南	立会	なし
赤湯	民間開発	令和２年８月３日	横沢遺跡隣地	三間通字傾城橋	試掘	なし
赤湯	民間開発	令和２年９月10日	未確認	赤湯芳野前南	立会	なし
赤湯	民間開発	令和２年11月９日	長岡山東遺跡	長岡字西田中南	立会	なし
漆山	分布調査	令和２年４月28日	未確認	池黒字松畑、馬場、壇之前、沢田、後沢田	踏査	表採土器片２点
漆山	民間開発	令和２年９月８日	未確認	池黒字稲荷田	立会	なし
漆山	民間開発	令和２年９月15日	東屋敷遺跡隣地	漆山字東屋敷	立会	なし
漆山	民間開発	令和２年９月30日	新山遺跡隣地、西屋敷遺跡隣地	漆山字西屋敷	試掘	なし
沖郷	民間開発	令和２年１月14日	未確認	鍋田字水上	試掘	なし
沖郷	民間開発	令和２年４月15日	西中上遺跡	高梨字北之前	試掘	なし
沖郷	民間開発	令和２年７月29日、８月４日	中里遺跡	高梨字大角壇	立会	なし
沖郷	民間開発	令和２年９月30日	未確認	宮崎字町屋敷	立会	なし
沖郷	民間開発	令和２年11月２日	蒲生田館跡	蒲生田字町屋敷	立会	なし
沖郷	民間開発	令和２年11月11日	未確認	郡山字石堰一	試掘	なし
沖郷	民間開発	令和２年11月17日	西田遺跡、中屋敷遺跡隣地	若狭郷屋字扇田	試掘	なし
沖郷	民間開発	令和２年11月19日	矢の目館跡	郡山字北的	試掘	土師器片１、遺構なし
沖郷	民間開発	令和２年11月30日	矢の目館跡	郡山字北的	立会	なし
沖郷	民間開発	令和２年12月９日	百刈田遺跡	鏑田字三ケ口	立会	なし
中川	分布調査	令和２年１月28日	鷹戸山館、北日影館	川樋字中沢、元中山字日影	踏査	なし
中川	分布調査	令和２年２月４日	鷹戸山館、北日影館	川樋字中沢、元中山字日影	踏査	なし
中川	分布調査	令和２年４月16日	鷹戸山周辺	釜渡戸字東立山、元中山字日影、金山字砥石沢、川樋字北沢	踏査	窯跡、土塁、曲輪、堀切など
中川	分布調査	令和２年５月７日～８日	鷹戸山館跡、鷹戸山東館跡	元中山字日影	踏査	曲輪等の確認
中川	分布調査	令和２年５月12日	未確認	新田字五十匁	踏査	なし
中川	市道整備	令和２年10月14日、11月５日、11月17日	岩屋堂遺跡	川樋	立会	なし
宮内	民間開発	令和２年２月26日	久保遺跡	宮内字桐町	試掘	なし
宮内	民間開発	令和２年４月14日	宮内小学校敷地内遺跡隣地	宮内字田町二	試掘	なし
宮内	下水道整備	令和２年５月20日	未確認	宮内字富貴田	立会	なし
宮内	民間開発	令和２年８月５日、８月24日	馬場遺跡	宮内字馬場二	立会	なし
宮内	民間開発	令和２年９月28日	富貴田遺跡	宮内字大壇	立会	なし
梨郷	民間開発	令和２年９月１日	未確認	竹原字石仏	立会	なし
梨郷	民間開発	令和２年９月17日	未確認	砂塚字東川前二	立会	なし
梨郷	分布調査	令和２年11月９日	割田館跡	竹原字割田	踏査	なし

Ⅱ 踏 査

1 北町遺跡・上野山古墳群（大沢山支群）

（1）調 査 日　令和２年１月10日

（2）調査場所　南陽市赤湯字新田、団子山、大沢一、大沢山

（3）調査目的　遺跡台帳整備のための現況確認

（4）調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

（5）結　　果

磨製石斧が多く発見された赤湯字新田から団子山周辺では剥片・チップなどが採取された。また上野山古墳群（大沢山支群）の状況確認を行ったが、その範囲は果樹園等の後世の改変により、古墳とみられる地形は確認出来なかった。

第５図　北町遺跡・大沢地区調査位置図

北町遺跡（字新田）から白竜湖を望む（西より）

磨製石斧採取推定地（北西より）

北町遺跡（字新田）から日向洞窟方向を望む（北西より）

2　鷹戸山館跡・鷹戸山東館跡・北日影館跡・日影小館跡

（1）調 査 日　①令和2年1月28日
②令和2年2月4日
③令和2年4月16日
④令和2年5月7日、8日

（2）調査場所　①南陽市川樋字中沢、南陽市元中山字日影
②南陽市元中山字日影
③南陽市釜渡戸字東立山、元中山字日影、金山字砥石沢、川樋字北沢
④南陽市元中山字日影

（3）調査目的　航空レーザー測量により新たに判明した館跡の現況確認。

（4）調査方法及び内容
写真撮影を行いながら踏査する。

（5）結　　果
①【鷹戸山館】 川樋公民館の西約50m地点から日影街道を北に約300m進むと、街道を横切る沢にぶつかる。その沢の手前に砂防提工事用の仮設道路が作られており、道を上流方向に約200m登ったあと山裾を北へ移動すると館跡の一部と見られる地形が確認できた。この遺構は南北の深い沢に挟まれた山の急斜面に位置し、小規模な曲輪群の中を道が上方に続く。北側の沢の中州状の枝尾根の尾根にも数段の腰曲輪が確認できる。現況は山林である。
【北日影館】 元中山公民館から南西約400m先に進むと永雲寺の南に到る。永雲寺の西約50m付近から30mほど山を登り、「北日影館」の東端にあたる曲輪群を確認した。現況は山林である。
②鷹戸山館跡、北日影館跡、日影小館跡の遠景写真撮影を行った。日影小館跡は、その東端の曲輪の下まで踏査した。
③北西の谷から鷹戸山の北側尾根に入り、主郭に当たる場所を目指して尾根頂を進む。途中で炭窯跡を確認した。尾根頂を進むと落ち込みがみられたが堀切かどうかは明瞭ではない。尾根頂をさらに進むと腰曲輪と尾根筋の階段状の曲輪がみられた。主郭の手前は急峻になる。主郭には石祠が1基あり、北東側には帯曲輪が確認できた。主郭の南東方向の尾根には階段状の曲輪があり、その先には広い平坦地がある。そこでは状態の良い土塁、堀切、土橋状の地形を確認した。その平坦地より向こうの尾根と鷹戸山東館方面へ延びる尾根は急峻な地形であることも確認した。
④日影街道の耕作地跡から尾根に入る。尾根を登ると鷹戸山館東端の帯状に尾根を囲む横堀に当たる。横堀の末端から北側尾根へ下りる。尾根端付近で切岸と平坦な曲輪があることを確認した。

日影館跡の南にある尾根を西へ踏査し、続いて南側の沢を横断して鷹戸山東館のある尾根に入り、主郭を目指す。

日影館跡の南にある尾根一帯は成就院跡であり、城館跡は無いとみられる。

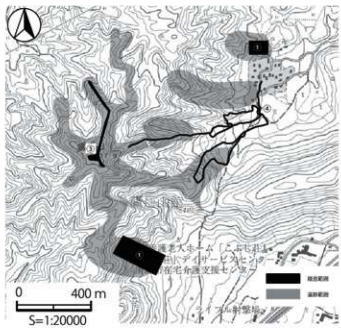
鷹戸山東館がある尾根の南北の斜面は急峻な地形で東端の斜面から入り、尾根をしばらく進み、主郭東側で階段状曲輪群を確認した。曲輪群の途中には高さのある切岸が設けられている。さらに主郭南北に帯曲輪を確認。主郭の西側、鷹戸山館方面の尾根には土塁と堀切が構築されており、堀切は谷の下方まで続く。赤色立体地図から起こした略図では二重堀切としていたが、堀切は１つであるため修正をする。また、主郭には数十㎝～１ｍ程の石がいくつか置かれている。南側の谷に面した肩部には一部で石を並べて簡素な土止めが施されている。

第６図　鷹戸山館跡・鷹戸山東館跡調査位置図

鷹戸山　主郭内の祠（東より）

鷹戸山　尾根頂平地の東側土塁（西より）

鷹戸山　堀切と土橋状の盛土（南より）



第７図　鷹戸山館跡・鷹戸山東館跡調査経路図

鷹戸山　土塁と堀切　（東より）

3　池黒地区

（1）調 査 日　令和2年4月28日

（2）調査場所　南陽市池黒字松畑、馬場、壇之前、沢田、後沢田

（3）調査目的　織機川東側の未調査地であり、遺跡台帳整備のために現況を確認するために。

（4）調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

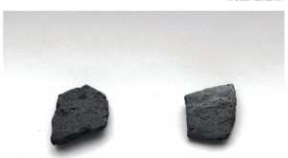
（5）結　　果

踏査範囲内において土器片を表面採取した。小片のため詳細は不明であるが1点は須恵器坏と思われる。

第8図　池黒地区調査位置図

調査地遠景

調査地遠景



表採遺物

4　新田字五十匁

（1）調 査 日　令和2年5月12日

（2）調査場所　南陽市新田字五十匁69付近

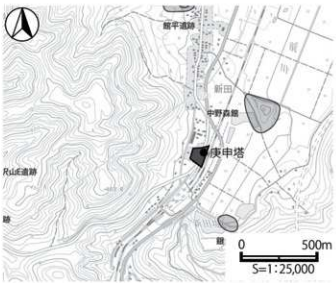
（3）調査目的　遺跡台帳整備のため、遺跡の有無の確認と石造文化財の調査を行う。

（4）調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

（5）結　　果

踏査した結果、地表面に遺物等は確認されなかった。庚申塔7基、青面金剛像1基がある。



第9図　新田字五十匁調査位置図

調査地遠景（西より）

庚申塔（東より）

5　割田館跡

（1）調 査 日　令和2年11月6日

（2）調査場所　南陽市竹原字割田

（3）調査目的　割田館跡及びその隣地である。遺跡台帳整備のため、明治8年（1875）の字限図や、昭和23年（1948）の航空写真と比較し、遺跡の現況を確認する。

（4）調査方法及び内容

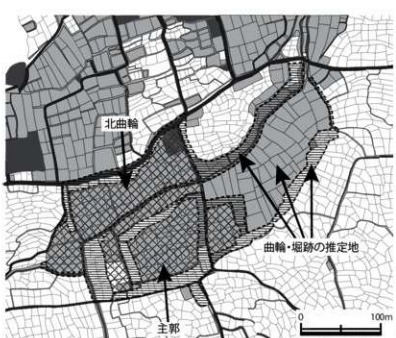
写真撮影を行いながら踏査する。

（5）結　　果

割田館跡は中世館跡である。館主は、梨郷村史では湯村図書、県城館遺跡調査では小関兵庫介と記している。調査地は、梨郷小学校の約200 m北に位置し、現況は水田等となって

第10図　割田館跡調査位置図

割田館跡（1948年の航空写真）



第11図　割田館跡推測図

割田館西側（西より）

割田館西側（南東より）

いる。

現在の遺跡範囲は、明治8年の字限図や昭和23年（1948）撮影の航空写真を元に登録されているが、字限図のデジタル化によって、主郭外側にある堀跡とみられる地割がより明確に確認されたため、その堀跡の現況確認を行った。

踏査は、南東の堀跡付近から道路に沿って館跡の北側を回り、西側から元の地点に戻った。堀跡や曲輪等の地形は耕地整理による切土・盛土によって、旧状が分からない状況になっているが、一部堀跡に関連と思われる落差のある地形を確認した。北曲輪とでも呼ぶべき主郭北側の曲輪は、地形的に主郭よりも高い。この付近は耕地整理が不十分であるため遺構が残っている可能性がある。遺跡面積は、県城館遺跡調査の範囲は10,000㎡程であるが、主郭外側の曲輪を含めると全体で約25,800㎡となる。

また、さらに航空写真では東側の自然堤防の北側と南側にも落差のある旧河道がみられたため、この付近も館の範囲であった可能性もあるが、現況は耕地整理によって画一的な水田になっている。

Ⅲ　試掘調査

1　鍋田字水上

（1）調 査 日　令和２年１月 14 日

（2）調査場所　南陽市鍋田字水上 910 － 2

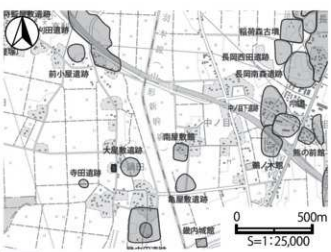
（3）調査原因　個人住宅建設

（4）調査方法及び内容

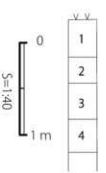
当該地は大屋敷遺跡の隣地で、状況を把握するため工事と並行し立会調査を行う予定だったが、１ｍ×２ｍの試掘穴を設定し調査を実施した。

（5）結　　果

遺構・遺物は確認されなかった。当該地内には遺跡は無いと判断した。



第 12 図　鍋田字水上調査位置図



1. 褐色シルト粘土
2. 褐色粘土（黄褐色粘土混じり）
3. 暗灰色粘土
4. 灰色粘土
5. 黒色粘土

第 13 図　鍋田字水上ピット柱状図

鍋田字水上調査状況

2　久保遺跡

（1）調 査 日　令和2年2月26日

（2）調査場所　南陽市宮内字鞠町3619－3

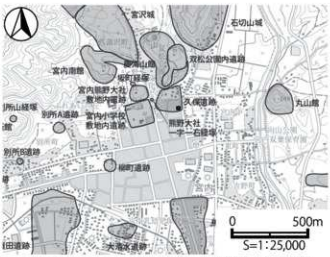
（3）調査原因　個人住宅(物置設置)建設（93条届）

（4）調査方法及び内容

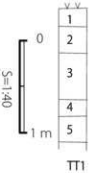
当該地は久保遺跡にかかることから、遺跡内容を把握するため試掘調査を行った。調査対象範囲26㎡について、幅1ｍ×長2ｍの試掘溝1か所を設定し、試掘を実施した。

（5）結　　果

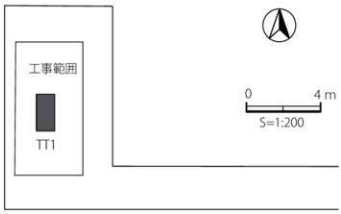
今回の調査では、遺構・遺物は確認されなかった。よって工事による遺跡への影響はないと判断した。



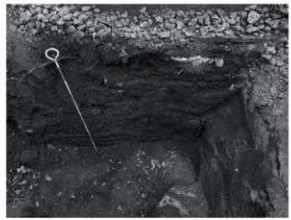
第14図　久保遺跡調査位置図



第16図　久保遺跡トレンチ柱状図



第15図　久保遺跡調査範囲図



久保遺跡　TT1土層断面

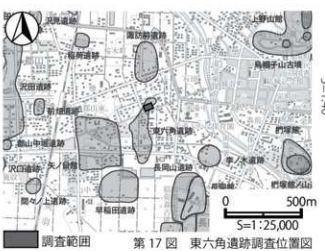
3　東六角遺跡

（1）調 査 日　令和2年3月19日
（2）調査場所　南陽市三間通字西蔵田161
（3）調査原因　宅地造成（93条届）
（4）調査方法及び内容

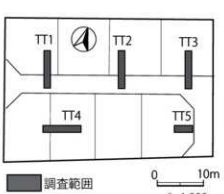
当該地は東六角遺跡にかかることから、遺跡の範囲・内容を把握するため試掘調査を行った。調査対象範囲2127㎡について、幅1.5ｍ×長10ｍの試掘溝を4か所(TT1～TT4)、幅1.5ｍ×長5ｍを1か所（TT5）設定し、試掘を実施した。

（5）結　　果

遺構・遺物は確認できなかったため、今後範囲の修正を含めた検討が必要である。試掘の結果からみて遺跡への影響はないと判断した。



第17図　東六角遺跡調査位置図



第18図　東六角遺跡調査範囲図

第19図　東六角遺跡トレンチ柱状図

東六角遺跡　TT1（南東より）

東六角遺跡　TT2（南東より）

東六角遺跡　TT3（南東より）

東六角遺跡　TT4（南東より）

東六角遺跡　TT5（南東より）

東六角遺跡調査前全景　左（南西より）
右（西より）

4　二色根・三間通地区

（1）調 査 日　令和2年3月26日

（2）調査場所　南陽市二色根字面田 153 － 1、154 － 1
　　南陽市三間通字円蔵前 1282、1283 － 1

（3）調査原因　宅地造成

（4）調査方法及び内容

・二色根地区　調査対象範囲 2042㎡について、幅1ｍ× 1ｍの試掘穴3か所を設定。

・三間通地区　調査対象範囲 2059㎡について、幅1ｍ× 1ｍの試掘穴2か所を設定。

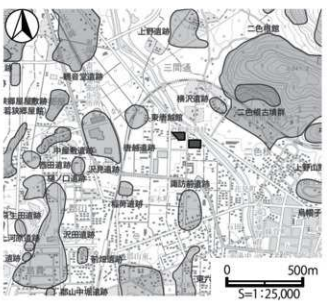
それぞれ手掘りで試掘を行った。

（5）結　　果

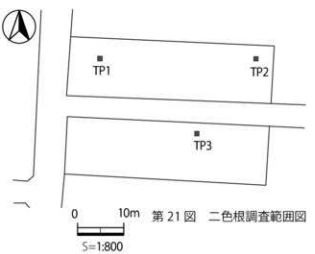
・二色根地区　遺構は確認出来ず、TP1 上層から時代不明の土師器小片3点が出土。

・三間通地区　遺構は確認出来ず、TP1 上層から時代不明の土師器小片1点と小型陶器の底部片（器種不明）1点が出土した。

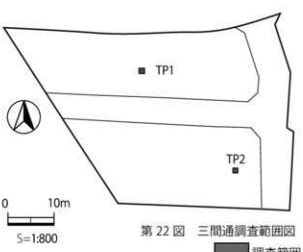
遺構は確認されず、遺物も流れ込みと思われる。土層は広範囲にわたって均一であることから、仮に調査深度以下に遺跡があった場合でも影響は少ないと判断した。



調査範囲　第20図　二色根・三間通調査位置図

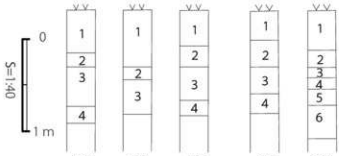


第21図　二色根調査範囲図



第22図　三間通調査範囲図

調査範囲



第 23 図　二色根・三間通地区調査ピット柱状図

二色根地区

TP1
1. 耕作土
2. 灰色粘土，土師器小片混入
3. 黒色粘土（しまり強い）
4. 灰褐色シルト

TP2
1. 耕作土
2. 灰色粘土
3. 黒色粘土（しまり強い）

TP3
1. 耕作土
2. 灰色粘土
3. 黒褐色粘土（しまり強い）
4. 灰褐色粘土

三間通地区

TP1
1. 耕作土
2. 黒色粘土（しまり強い）
3. 暗褐色粘土（土師器・小片混入）
4. 灰色砂質粘土

TP2
1. 耕作土
2. 灰色粘土
3. 黒色粘土（しまり強い）
4. 褐色粘土
5. 暗褐色粘土
6. 暗灰色砂質粘土

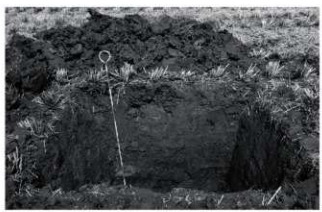
二色根・三間通地内調査前状況（西より）

二色根地内調査　TP1 土層断面

二色根地内調査　TP2 土層断面

二色根地内調査　TP3 土層断面

三間通地内調査　TP1 土層断面



三間通地内調査　TP2 土層断面

5　宮内小学校地内遺跡隣地

（1）調 査 日　令和2年4月14日

（2）調査場所　南陽市宮内字田町二 3436 － 46

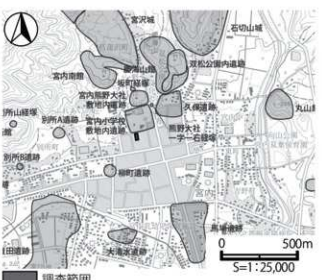
（3）調査原因　個人住宅建設

（4）調査方法及び内容

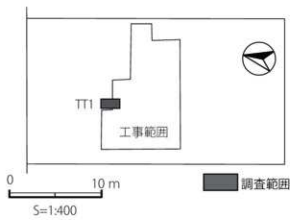
当該地は宮内小学校敷地内遺跡の南側約 10 mに位置することから、試掘調査を行うものとした。調査対象の範囲となる 63.18㎡について、幅1 m×長2 mの試掘溝を1か所設定した。

（5）結　　果

遺構は確認されなかった。遺物は土器小片（土師器・縄文土器か？）が出土した。工事による遺跡への影響はないと判断した。



第 24 図　宮内小学校地内遺跡調査位置図



第 25 図　宮内小学校地内遺跡調査範囲図

宮内小学校地内遺跡調査前状況（北西より）

宮内小学校地内遺跡　TT1 土層断面

第 26 図　宮内小学校地内遺跡トレンチ柱状図

6　西中上遺跡

（1）調 査 日　令和2年4月15日

（2）調査場所　南陽市高梨字北之前550－3、552－1、555－1、555－4、555－5

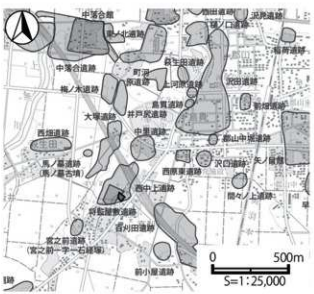
（3）調査原因　個人住宅建設（93条届）

（4）調査方法及び内容

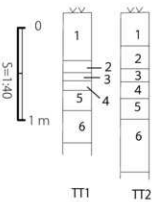
当該地は西中上遺跡の範囲にかかることから試掘調査を行った。調査対象範囲294.84㎡について、幅1m×長2mの試掘溝を2か所設定し試掘を行った。

（5）結　果

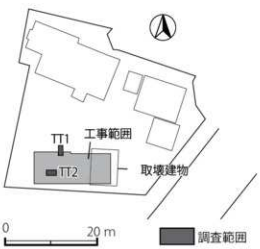
遺構は確認されなかった。遺物について、TT1・2からは少量の土器粒と近現代の磁器等が出土していることから、後世の撹乱を受けたと思われる。今回の調査地では遺跡への影響は少ないと判断した。



第27図　西中上遺跡調査位置図



第29図　西中上遺跡トレンチ柱状図



第28図　西中上遺跡調査範囲図

西中上遺跡　TT1 土層断面

西中上遺跡　TT2 土層断面

7　中ノ目下遺跡

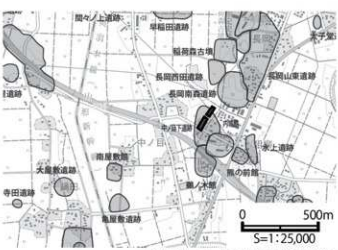
（1）調 査 日　令和2年4月30日
（2）調査場所　南陽市沼柳及び中ノ目地内
（3）調査原因　道路改良工事（94条通知）
（4）調査方法及び内容

当該地は中ノ目下遺跡にかかることから、試掘調査を行うものとした。工事範囲709㎡の内、調査対象範囲約600㎡について、幅1m×長1mの試掘穴9か所を設定し、試掘を実施した。

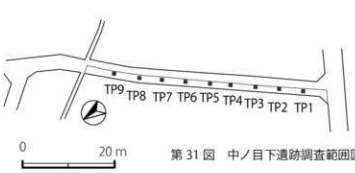
（5）結　　果

遺構はTP3とTP4でSPをそれぞれ1基ずつ検出した。遺物はTP2・4・6・8・9の耕作土、および表土から土師器片、須恵器片、石器が出土したが、河川跡を埋め立てた際に紛れ込んだものと思われる。

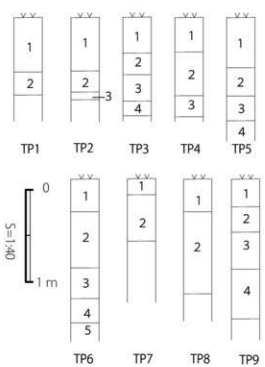
工事は表土を30cm掘削するが遺構面の深度は現況約40～45cmであることから、工事立会を行うのが適当と判断した。



第30図　中ノ目下遺跡調査位置図



第31図　中ノ目下遺跡調査範囲図



第32図　中ノ目下遺跡柱状図

TP1
1．耕作土
2．灰黒色粘土（黄褐色混入）

TP2
1．耕作土（土器混入）
2．灰褐色粘土（黄褐色混入）
3．褐色砂質粘土

TP3
1．耕作土
2．灰褐色粘土（黄褐色混入）
3．褐色砂質粘土
4．黒色粘土

TP4
1．耕作土
2．灰褐色粘土（黄褐色混入，土師器・須恵器片混入）
3．黒色粘土

TP5
1．耕作土
2．灰褐色粘土（黄褐色混入）
3．褐色粘土
4．黒色粘土

TP6
1．耕作土
2．灰褐色粘土（黄褐色混入）
3．黒色粘土
4．黄褐色粘土
5．緑灰色粘土

TP7
1．耕作土
2．灰褐色粘土（黄褐色混入）

TP8
1．耕作土
2．灰褐色粘土（黄褐色混入）

TP9
1．耕作土
2．黒色粘土（須恵器片混入）
3．灰褐色粘土（黄褐色混入）
4．緑灰色粘土（砂混入）

中ノ目下遺跡　TP1 土層断面

中ノ目下遺跡　TP2 土層断面

中ノ目下遺跡　TP3 土層断面

中ノ目下遺跡　TP4 土層断面

中ノ目下遺跡　TP5 土層断面

中ノ目下遺跡　TP6 土層断面

中ノ目下遺跡　TP7 土層断面

中ノ目下遺跡　TP8 土層断面

中ノ目下遺跡　TP9 土層断面

8　横沢遺跡隣地

（1）調 査 日　令和2年8月3日

（2）調査場所　南陽市三間通字傾城橋 641 －2、651、666

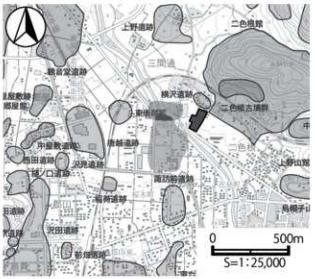
（3）調査原因　宅地造成

（4）調査方法及び内容

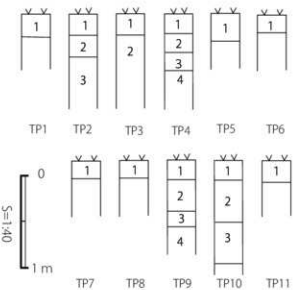
当該地は横沢遺跡南西側隣地に位置することから試掘調査を行うものとした。調査対象である範囲の 6,555㎡の 7 割がブドウ畑として利用されているため、それを除いた部分について、幅 1 m×長 1 mの試掘穴 11 か所を設定し試掘を行った。

（5）結　　果

遺構・遺物ともに確認されなかったことから、遺跡はないと判断した。



第 33 図　横沢遺跡調査位置図



第 34 図　横沢遺跡ピット柱状図

横沢遺跡現地調査前状況

TP1
1．表土

TP2
1．表土
2．褐色砂質粘土
（黄褐色粘土混入）
3．褐色砂質粘土

TP3
1．表土
2．黄褐色砂質粘土

TP4
1．表土
2．褐色砂質粘土
3．灰白色粘土
4．灰白色砂質粘土

TP5
1．表土

TP6
1．表土

TP7
1．表土

TP8
1．表土

TP9
1．表土
2．灰白色粘土
3．明黄褐色砂質粘土
4．暗褐色砂質粘土

TP10
1．表土
2．褐色粘土
3．黄褐色砂質粘土

TP11
1．表土

横沢遺跡　TP1 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP2 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP3 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP4 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP5 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP6 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP7 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP8 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP9 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP10 土層断面（南より）

横沢遺跡　TP11 土層断面（南より）

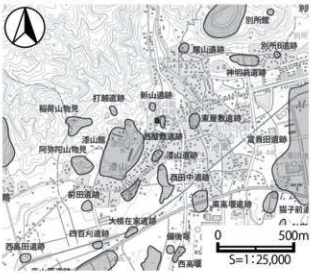
9　西屋敷遺跡隣地

（1）調 査 日　令和2年9月30日
（2）調査場所　南陽市漆山字西屋敷1803
（3）調査原因　個人住宅建設
（4）調査方法及び内容

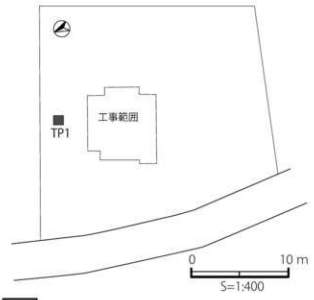
当該地は新山遺跡範囲の南隣、西屋敷遺跡範囲の西隣にあたるため試掘調査を行った。調査対象となる範囲に幅1m×長1mの試掘穴を設定し調査を行った。

（5）結　　果

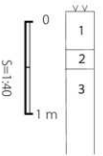
遺構・遺物ともに確認されなかったため、当該地には遺跡はないと判断した。



第35図　西屋敷地内調査位置図



第36図　西屋敷地内調査範囲図



第37図　西屋敷地内ピット柱状図

西屋敷地内調査前状況（西より）

西屋敷地内調査ピット土層断面

10　郡山字石堰地内

（1）調 査 日　令和2年11月11日

（2）調査場所　南陽市郡山字石堰一65－1、3、4、5　67－9、10、70－1
　　中ノ目字上井904－1

（3）調査目的　幼稚園建替

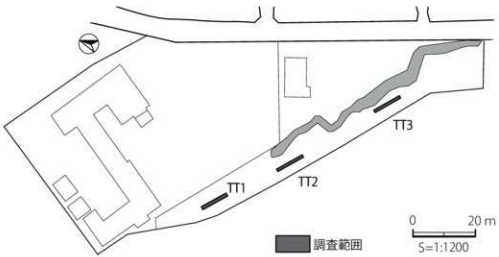
（4）調査方法及び内容

当該地は、調査未実施地であるため遺跡確認調査を行った。南側の果樹園跡について幅1m×長10mの試掘溝3か所を設定し、試掘溝の内1か所で深堀を行った。

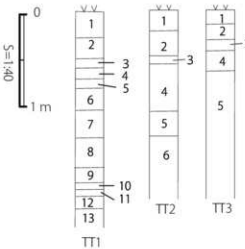
（5）調査結果

遺物・遺構等は検出されなかったことから遺跡はないと判断した。

第38図　郡山字石堰地内調査位置図



第39図　郡山字石堰地内調査範囲図



TT1
1. 表土
2. 褐色砂質粘土
3. 褐色粘土（暗褐色粘土混入）
4. 褐色粘土
5. 黒褐色粘土
6. 明褐色粘土
7. 青灰色粘土
8. 黒色粘土
9. 灰褐色粘土
10. 灰色粘土
11. 黒褐色粘土
12. 青灰色粘土
13. 灰白色粘土

TT2
1. 表土
2. 褐色砂質粘土
3. 褐色粘土、暗褐色粘土混入
4. 黒褐色粘土
5. 灰褐色粘土
6. 青灰色粘土

TT3
1. 表土
2. 褐色砂質粘土
3. 灰色粘土
4. 明褐色砂質粘土、灰色粘土
5. 灰色砂礫層

第 40 図　郡山字石堰地内トレンチ柱状図

郡山字石堰地内調査前状況（北西より）

郡山字石堰地内　TT1

郡山字石堰地内　TT2

郡山字石堰地内　TT3

11　若狭郷屋字扇田地内

（1）調 査 日　令和2年11月17日

（2）調査場所　南陽市若狭郷屋字扇田398－2

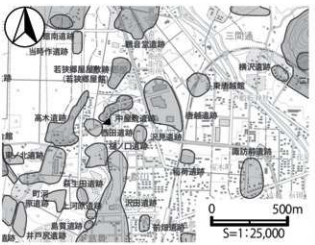
（3）調査原因　個人住宅建設

（4）調査方法及び内容

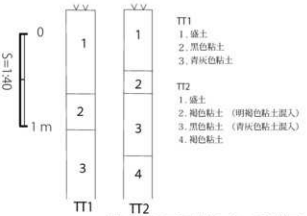
当該地は西田遺跡と中屋敷遺跡の隣地であることから、遺跡の有無を把握するため試掘調査を行った。調査対象となる383.80㎡について、幅1ｍ×長2ｍと幅1ｍ×長さ4ｍの試掘溝を設定し、試掘を実施した。

（5）結　　果

遺構・遺物ともに確認されなかった。当該地に遺跡はないと判断した。



第41図　扇田地内調査位置図



第43図　扇田地内トレンチ柱状図

第42図　扇田地内調査範囲図

扇田地内調査前状況（南東より）

扇田地内調査TT2トレンチ土層断面

12　矢の目館跡

（1）調 査 日　令和2年11月19日

（2）調査場所　南陽市郡山字北的879－2

（3）調査原因　個人住宅建設（93条届）

（4）調査方法及び内容

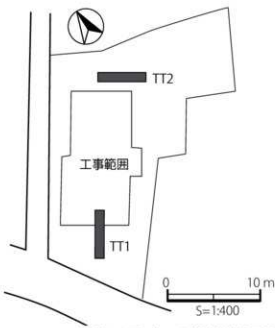
当該地は、矢の目館跡にかかることから、試掘調査を行った。調査対象となる範囲の457㎡について、幅1m×長5mの試掘溝2か所を設定し、試掘を実施した。

（5）結　果

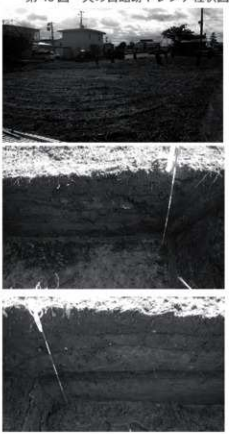
遺構は確認されず、遺物は表土から土師器片1が出土した。工事による遺跡への影響はないと判断した。

第44図　矢の目館跡調査位置図

第46図　矢の目館跡トレンチ柱状図



第45図　矢の目館跡調査範囲図



矢の目館跡
調査前状況（上）
TT1 土層断面（中）
TT2 土層断面（下）

Ⅳ　立会調査

1　富貴田遺跡隣地

（1）調 査 日　令和２年５月 20 日

（2）調査場所　南陽市宮内字富貴田一地内

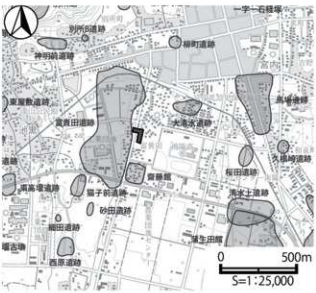
（3）調査原因　下水道工事

（4）調査方法及び内容

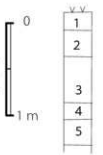
当該地は富貴田遺跡の隣地で、状況を把握するため工事と並行し立会調査を行った。

（5）結　　果

遺構・遺物は確認されなかった。



第 47 図　宮内字富貴田調査位置図



第 48 図　宮内字富貴田地内柱状図

宮内字富貴田一調査状況

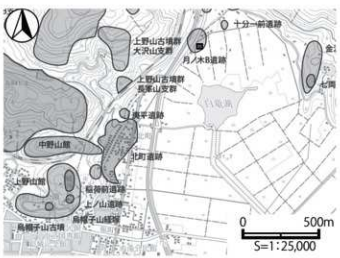
2　月ノ木B遺跡

（1）調 査 日　令和2年7月15日
（2）調査場所　南陽市赤湯字中堀南 1122－3
（3）調査目的　携帯基地建設（93条届）
（4）調査方法及び内容

当該地は月ノ木B遺跡にかかるが、狭小地であり盛土層が厚いため工事立会で対応した。調査対象の範囲となる5㎡（2×2.5 m）について、工事に伴い深さ3.2 mまで掘削し掘削時の排土及び断面確認を行った。

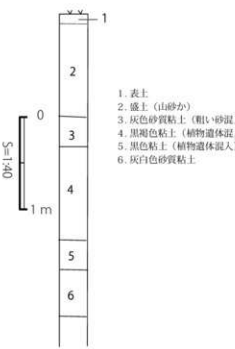
（5）結　　果

掘幅は約50cmのため遺構・遺物は確認されなかった。地上から1.4 mより下の層には植物遺体が多く含まれていた。



第49図　月ノ木B遺跡調査位置図

月ノ木B遺跡調査状況



第50図　月ノ木B遺跡柱状図

3　中里遺跡

（1）調 査 日　令和2年7月29日、8月4日

（2）調査場所　南陽市高梨字大角壇768－1

（3）調査原因　個人住宅建設（93条届）

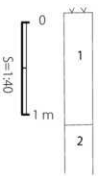
（4）調査方法及び内容

当該地は、中里遺跡にかかるが今回は狭小地の上、以前合併浄化槽が埋設されていたとのことから工事立会の対応を行った。

（5）結　　果

遺構・遺物は確認されなかった。掘削は表土に留まり、遺跡には影響はないと判断した。

第51図　中里遺跡調査位置図



第53図　中里遺跡立会調査坑柱状図

第52図　中里遺跡立会調査範囲図

中里遺跡調査状況

4　馬場遺跡

（1）調 査 日　令和2年8月5日、8月24日

（2）調査場所　南陽市宮内字馬場二 463、464、477、478

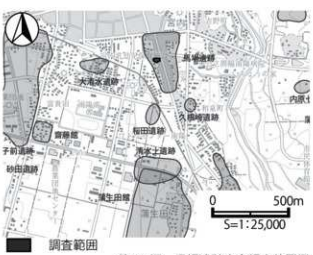
（3）調査原因　個人住宅建設（93 条届）

（4）調査方法及び内容

当該地は馬場遺跡にかかるが、コンクリート敷き等の理由から工事立会で対応することとした。

（5）結　　果

遺構・遺物は確認されなかった。掘削は盛土内で収まり遺構面まで達しないため、遺跡への影響はないと判断した。



第 54 図　馬場遺跡立会調査位置図

馬場遺跡立会調査状況

5　南陽市内携帯電話無線基地局設置地（8か所）

（1）調査日・場所

①令和2年9月1日　　南陽市竹原字石仏 42 － 1
②令和2年9月8日　　南陽市池黒字稲荷田 916 － 2
③令和2年9月10日　南陽市赤湯字芳野前南 2619 － 1
④令和2年9月15日　南陽市漆山字東屋敷 1925 － 1（東屋敷遺跡隣地）
⑤令和2年9月17日　南陽市砂塚字東川前二 163 － 1
⑥令和2年9月28日　南陽市宮内字大壇 4893（93条届　富貴田遺跡）
⑦令和2年9月30日　南陽市宮崎字町屋敷 480 － 1
⑧令和2年11月30日 南陽市郡山字北的 885（93条届　矢の目館跡）

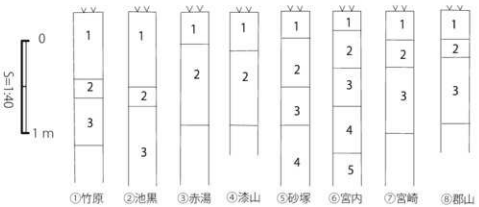
（2）調査原因　携帯基地建設

（3）調査方法及び内容

掘削範囲が狭小のため、工事立会を行うものとした。

（4）結　　果

遺構・遺物は確認されなかった。



第55図　基地局設置地柱状図

①竹原
1．表土
2．山砂
3．黒色砂質粘土

②池黒
1．表土
2．暗褐色砂質粘土
3．暗褐色砂質粘土か？

③赤湯
1．表土
2．黄褐色砂質粘土暗褐色砂質粘土混入

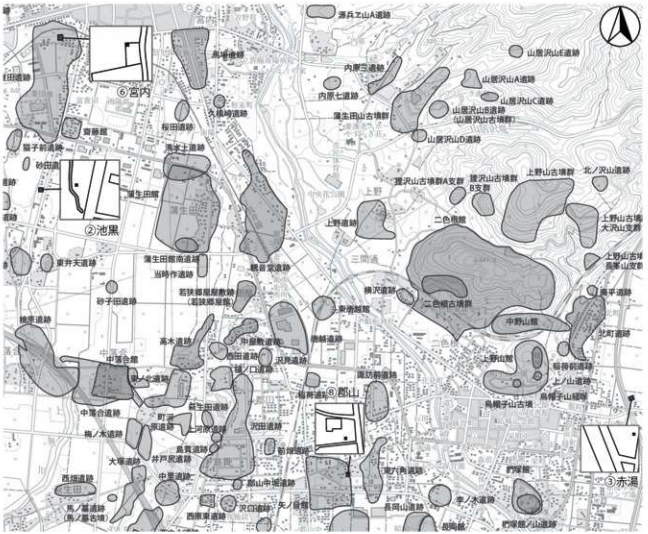
④漆山
1．表土
2．暗褐色砂質粘土

⑤砂塚
1．表土
2．暗褐色砂質粘土（硬）
3．オリーブ褐色シルト粘土
4．明褐色粘質砂礫

⑥宮内
1．表土
2．盛土
3．暗褐色土（小石含む）
4．灰褐色粘土
5．黒褐色粘土

⑦宮崎
1．表土
2．褐色砂質粘土
3．灰褐色粘土

⑧郡山
1．表土
2．暗褐色砂質粘土
3．黄褐色砂質粘土



第 56 図　携帯電話無線基地局調査位置図

6　岩屋堂遺跡

（1）調 査 日　令和2年10月14日、11月5日、11月17日

（2）調査場所　南陽市川樋字岩屋堂

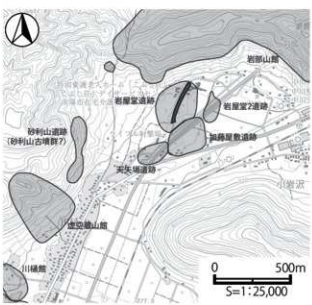
（3）調査原因　側溝設置・舗装工事（94条通知）

（4）調査方法及び内容

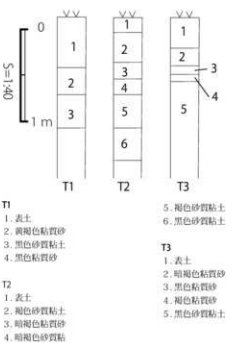
対象地は、岩屋堂遺跡内で、調査未実施地であることから、工事の際に立会いを行い、遺物・遺構の有無を確認する。

（5）結　　果

撹乱が著しく、遺物・遺構は確認されなかった。



第57図　岩屋堂遺跡位置図



第58図　岩屋堂遺跡柱状図

岩屋堂遺跡立会調査（（南より）

岩屋堂遺跡立会調査状況（東より）

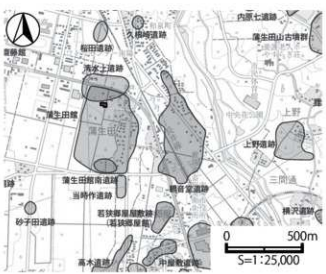
7　蒲生田館跡

（1）調 査 日　令和2年11月2日
（2）調査場所　南陽市蒲生田字町屋敷1522－1
（3）調査原因　カーポート建設（93条届）
（4）調査方法及び内容

当該地は蒲生田館跡にかかるが、掘削範囲が狭いことから工事の際に立会いを行い、遺跡の有無を確認した。

（5）結　　果

撹乱が多く、遺構・遺物は確認されなかった。工事のための掘削は20cmと浅く盛土内で収まって。遺跡には影響は無いと判断した。



第59図　蒲生田館跡試掘調査位置図

蒲生田館跡調査地状況

8　長岡山東遺跡

（1）調 査 日　令和2年11月9日

（2）調査場所　南陽市長岡字西田中南1491

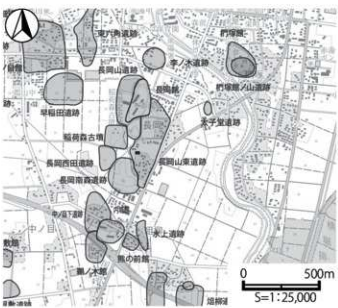
（3）調査原因　個人住宅建設（93条届）

（4）調査方法及び内容

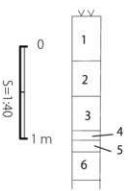
当該地は長岡山東遺跡内にある。深堀を行う下水道管工事の際に立会いを行った。

（5）調査結果

遺構・遺物ともに確認されなかった。



第60図　長岡山東遺跡試掘調査地



第61図　長岡山東遺跡柱状図

土層断面

長岡山東遺跡調査地状況

9　百刈田遺跡

（1）調 査 日　令和2年12月14日

（2）調査場所　南陽市鍋田字三ケ口795－1

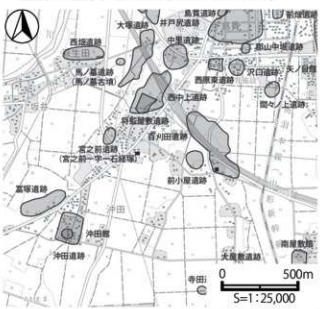
（3）調査原因　個人住宅建設（93条届）

（4）調査方法及び内容

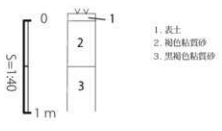
当該地は百刈田遺跡内であるが、既存建物があることから基礎工事に伴う掘削の際に立会調査を行った。

（5）調査結果

遺構・遺物ともに確認されなかった。



調査範囲　第62図　百刈田遺跡試掘調査地



第63図　百刈田遺跡立会調査柱状図

V 補 足

西原東遺跡（郡山遺跡群）

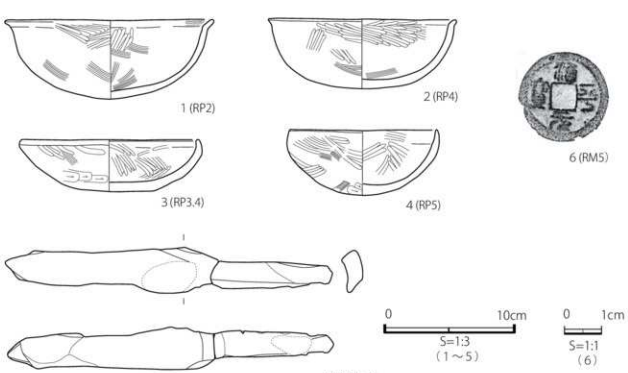
西原東遺跡は南陽市教育委員会によって昭和62年に発掘調査が行われ、平成25年に「郡山遺跡群・富貴田遺跡発掘調査報告書」（吉田・山田2013）にて報告した。しかし近年未報告の遺物が存在していたことがわかり、それについて本書で補足発表することとした（西原東遺跡の詳細は上記報告書を参考としていただきたい）。

今回は24-22G(註1)の土器集中域から出土した土器および柱穴SK5から出土した鉄製品の合わせて5点を図化・掲載した。

土器は丸底塊で、図64－1・2口唇を外に引き出し、図64－3・4は緩やかな稜を持ち、口唇を内弯させたタイプである。また1、2、4は口径に対して器高が高めである。これらの共通の特徴として器壁が厚く内外面ともにミガキ・ハケメが、3の外面にはケズリ痕がみられる。いずれも磨滅が目立つことから日常に使用されたものと思われる。類例として山形市の下柳A遺跡ST2・3からの一括出土した坏がある（阿部・吉田2002）。これらのことから5世紀後半に属するものと思われる。これは前述の報告書でも同様の報告をしている。

図64－5の鉄製品について、一見刀子のように見えるが錆膨れが顕著で原型が不明瞭なことと、X線撮影が出来なかったために本稿では用途不明の鉄製品とする。図64－5はSB1を構成するSK5から出土したものであるが、同SB1を構成するSK4の覆土から回転糸切底部の須恵器坏、縄文土器などが出土しているため遺構の年代は不明としている。

図64－6は北宋時代（1064年）の「治平元宝」である(註2)。出土地点は不明である。



第64図 西原東遺跡出土遺物

表２　西原東遺物観察表

図版番号	挿図番号	種別	器種	計測値（mm） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	備考
148	1	黒色土器	坏	164	40	62	5	ミガキ・ハケメ	ミガキ・ハケメ	ハケメ	
	2	土師器	坏	150	30	55	6	ミガキ・ハケメ	ミガキ・ハケメ	ハケメ	
	3	土師器	坏	146	(54)	42	5	ミガキ・ハケメ・ケズリ	ミガキ・ハケメ	不明	
	4	土師器	坏	120	(16)	52	6	ミガキ・ハケメ	ミガキ・ハケメ	不明	
	5	鉄製品	不明	251	36	-	12	-	-	-	鏡都れ等銅著（刀子か？）
	6	銅製品	銭	25	25		1				銭面『治平元宝』（北宋）

註（V補足のみ）

（1）2013年刊行の「郡山遺跡群・富貴田遺跡発掘調査報告書」において、遺物集中域のグリッドについて「22-24G」としているが、「24-22G」の誤りであり本稿をもって訂正する。

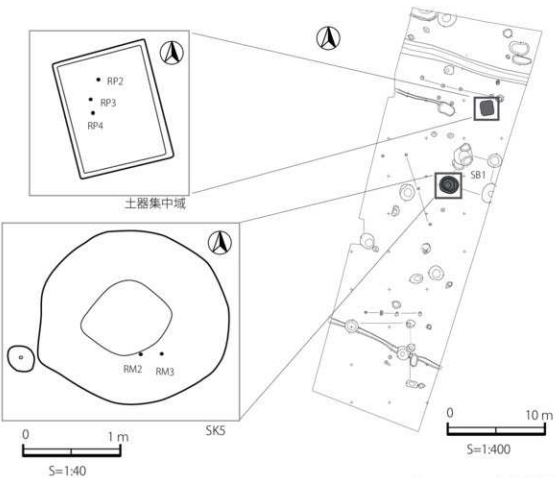
（2）古銭については高桑登氏にご教示いただいた。

引用・参考文献（V補足のみ）

尾形與典他　1996『下柳Ａ遺跡』「山形県埋蔵文化財センター調査報告書第38集」山形県埋蔵文化財センター

阿部明彦・吉田江美子　2002『山形県における古墳時代中期の土器様相（１）』「山形考古第７巻第２号」山形考古学会

吉田江美子・山田　渚　2013『南陽市埋蔵文化財発掘調査報告書第６集　郡山遺跡群・富貴田遺跡発掘調査報告書』南陽市教育委員会



第65図　西原東遺跡遺構図

Ⅵ　中世城館等測量調査

1　調査概要と目的

（1）調査期間　令和2年10月26日～令和3年3月22日

（2）調査場所　南陽市池黒、宮内、金山地内

（3）調査目的

対象地は、南陽市池黒、宮内、金山の宮内扇状地の北に位置する山地で、宮沢城とその周辺地である。別所館、宮沢城、北館、宮内南館、慶海山館、石切山城、丸山館、平館、楯山館、田中館、天ケ澤館が周知の中世城館跡として登録されている。今次調査では周知の館跡の規模や正確な位置を把握することを主たる目的に、未確認の城郭遺構や古墳、鉱山跡等の把握を行い、遺跡台帳を整備し、今後の調査や遺跡保護に資するため赤色立体地図等の作成を行うこととしたものである。

2　調査方法

調査地の現況は山林であることから、落葉後に航空レーザー測量及び現地での補助測量を実施した。赤色立体地図を元に館跡の略図を作成した。なお、略図は読み取った地形の概略図である。主たる計測範囲は宮沢城を中心とした1.7k㎡であるが、計測範囲は可能な限り広くとることとした。

第66図　調査遺跡位置図

3　測量方法と経過

測量計画は、GNSS 衛星配置等を考慮し、計測諸元、飛行コース、GNSS 基準局の設置場所及び GNSS 観測について作成し、１m×１mに４点の計測データを取得するものとした。測量機材は、必要に応じ「公共測量作業規定の準則」に定める検定を第三者機関より受けたものを使用した。

３次元航空レーザー測量は航空レーザー計測システム及び GNSS/IMU 装置を搭載した固定翼機を用いて実施した。航空レーザー測量データ（GNSS 基準局の GNSS 観測データ、航空機上の GNSS 及び IMU 観測データ、レーザー測距データ）を統合解析し、地表のレーザー照射位置の三次元座標を求めた。調整用基準点を設定し、三次元計測データを補正した。補正後のオリジナルデータから、建物や植生等の地物を除去したグランドデータを作成、これを基に等高線データ、赤色立体地図となる地形表現図を作成した。

4　主な成果

宮沢城及びその周辺のうち主なものを報告する。その他の周知の遺跡については従来の調査結果の再確認ができた。

（１）北館跡（第 68 図）

北館は標高 306 m付近、宮沢城の北に位置する。宮沢川右岸の三つの枝尾根を利用している。字白山堂にあたり白山権現があったと思われる。北端となる谷川を挟んで北には長谷観音がある。南端は宮沢城北端に接し、その境には竪堀が掘られている。今次調査でその位置と形状が具体的に把握された。平成７年山形県中世城館遺跡調査の元台帳には「宮内合戦　明応３年（1494）　北館々主遠藤成実が刈田白石に去って四年後」との記載がある。また、宮内熊野大社史（昭和 51 年　発行　熊野文化研究所）にも遠藤氏が北館にいたとの記載がある。

（２）宮内南館跡（第 69 図）

宮内南館は標高 308 mの山王山（愛宕山）に立地する。宮沢城の南に位置し、山頂には山王山「愛宕神社」が祀られている。今次調査で初めてその形状が把握された。

（３）武道作山館跡（第 70 図）

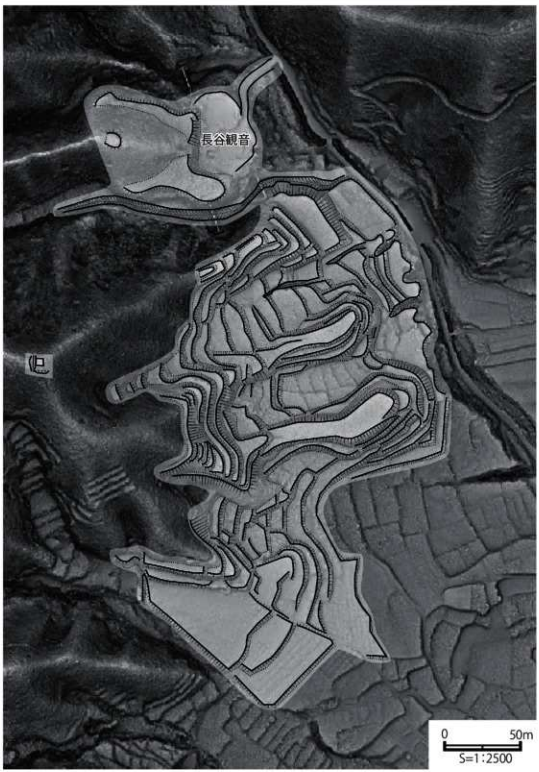
武道作山館は新規発見の小規模な山城である。武道作山の北東にあたる枝尾根の標高約 376 mに立地する。武道作山は、前九年の役の際に安倍軍に対抗して源氏の軍が陣を置いたという伝説が残る。小字名とし

第 67 図　レーザー調査範囲図

ての武道作山は、宮内南館～北館の西側の広範囲な地名で、館跡はその一角にあたる。西から延びる枝尾根に二本の堀切を配して背後の守りにしている。

（4）別所館跡（第 71 図）

別所館は、標高 368 mの上の平山（羽黒山、池黒山）山頂に位置する。山頂には羽黒神社が祀られている。本来の別所山は東側の谷を挟んだ東の山で、池黒と宮内の境界にあたり、



第 68 図　北館略図

第 69 図　宮内南館跡略図

第 70 図　武道作山館跡略図

それぞれ池黒別所山、宮内別所山とも呼ばれる。館への登坂経路は、坂之上神明神社の石段を登り、社殿から西へ進む。略図では神社周辺のテラスも図化している。主郭南側には戦時中に実弾発射場として利用された溝が掘られている。市史では延暦年間、坂上田村麻呂駐屯地との伝承を伝える。平成 7 年山形県中世城館遺跡調査では当時図化した以外にも東側に大きな曲輪が幾重にも存在する旨の記載があったが、今次調査で館跡の全容が判明し、位置と形状が具体的に把握された。

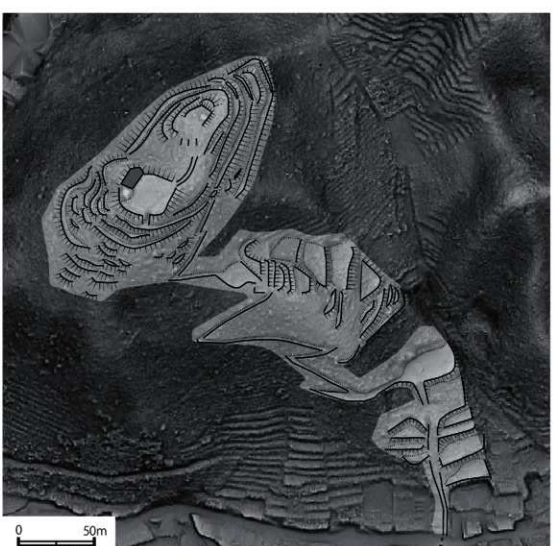
（5）池黒館山館跡（第 72 図）

池黒館山館は新規発見の山城である。上の平山の南西にあたる南に延びた枝尾根に立地し、最高所は標高約 360 m である。山裾には「館山下」「館山」の小

字名が残り、南には「館之内」の小字名が残る。小字名「館山」の西に別所館が立地することから、これらの小字名は別所館に関連するものと従来考えられてきた。池黒館山館は尾根頂よりやや下ったところに二段の大きな曲輪を構築し、その前方の二つに分かれた尾根に階段状の曲輪群を設けている。背後には大きな竪堀を１本配している。

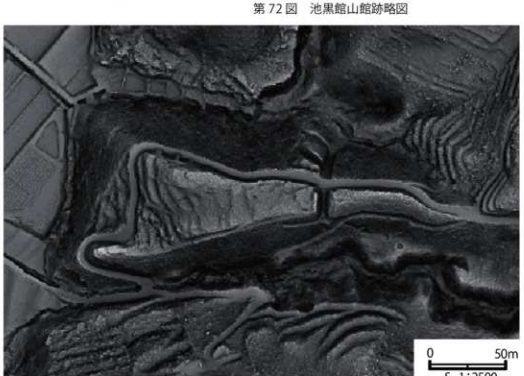
（６）天ケ澤館跡（第 73 図）

天ケ澤館は、金山字天ケ澤に位置する山城である。現地調査では熊が出没し危険であったため十分な調査ができなかったが、今次調査でその形状が明らかになった。



第 71 図　別所館跡略図

第 72 図　池黒館山館跡略図



第 73 図　天ケ澤館跡赤色立体図

第三次長岡南森遺跡確認調査（概報）

本報告は、文化庁の補助を受けて令和２年度に南陽市教育委員会が実施した長岡南森遺跡確認調査に関する調査報告である。

調査は、南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

凡　例

調査主体	南陽市教育委員会社会教育課埋蔵文化財係	
調査期間	令和２年６月１日から令和２年８月６日	
発掘調査担当者	社会教育課長	板垣幸広
	調査主任	角田朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長）
	埋蔵文化財係主任	髙橋　徹
	埋蔵文化財係会計年度任用職員	吉田江美子（6月8日～6月26日）
	埋蔵文化財係会計年度任用職員	斉藤紘輝
整理作業担当者	埋蔵文化財係会計年度任用職員	吉田江美子
	埋蔵文化財係会計年度任用職員	山田　渚

1　長岡南森遺跡確認調査委員会の構成は以下の通りである。

菊地　芳朗（福島大学行政政策学類教授）
北野　博司（東北芸術工科大学歴史遺産学科教授）
青木　敬　（國學院大學文学部史学科教授）
佐藤　鎭雄（南陽市文化財保護審議会委員）
佐藤　庄一（山形県考古学会会長）　　（順不同、敬称略）

2　本報告書の執筆についてはⅠ～Ⅲは角田朋行が、Ⅳは吉田江美子が担当した。遺物写真撮影は山田渚、報告書デジタル編集・構成作業は吉田江美子・山田渚が担当した。

3　挿図の縮尺はスケールで示した。

4　本書で使用した遺構の分類記号は下記の通りである。

ＳＤ・・・溝　　ＳＫ・・・土坑

5　写真図版は任意の縮尺で採録した。

6　小字名は、近年における字名の統廃合等で変化している場合、地名記録の観点から明治期の地籍図を小字名を括弧書きで記載した。

7　調査にあたっては、土地所有者の皆様をはじめ、次の方々によるご指導、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。（五十音順・敬称略）
山形県教育委員会、南陽市シルバー人材センター、青木敬、青山博樹、阿部明彦、
菊地芳朗、北野博司、佐藤鎭雄、佐藤庄一、髙桑登

8　遺跡の基準点設置は、明光技研株式会社に委託した。

Ⅰ　調査の経緯と目的

第１節　調査に至る経緯

長岡南森遺跡は、南森と呼ばれる独立丘陵地に立地する遺跡である。昭和53年稲荷森古墳調査団により確認され、平成５年度以降、丘陵の形状が前方後円墳に似ているとして踏査が続けられてきた。

近年周辺の土地開発が進み、丘陵に開発が及ぶ恐れがあることから、平成28年度に市教育委員会は遺跡の現状把握と今後の調査及び遺跡保護の基礎資料を得ることを目的に測量調査を実施した。

その結果、南森丘陵自体が古墳である可能性があり、遺跡の性格を把握するために調査検討が必要であると判断した。

調査は、平成30年度から５か年計画による確認調査を実施。令和元年度に長岡南森遺跡確認調査委員会を設置した。今年度は第３次調査となる。

第２節　調査期間と目的

（１）調査期間

令和２年６月１日～８月６日

（２）第三次確認調査の調査地

山形県南陽市長岡字南森1650－1、1661、1662、1676、1679、1696、1698、1700～1705、1652、1692、1699、1706、1709、1774、1651、1690、1697

(調査総面積246.59㎡)

（３）第三次確認調査の目的

長岡南森遺跡の性格把握及び南森丘陵の地形とその成因の把握を目的とする。特に丘陵および周辺において人工的構築物や掘削の存在の有無について調査検証を行う。

第３節　調査方法

（１）グリッドの設定

南森丘陵の測量図を基本にグリッド（以下「G」と略）を設定した。グリッドは10m×10mで丘陵南北軸を基線とし、南森丘陵の東西方向をアルファベット大文字で東からA～Rに、南森丘陵の南北方向を数字で北から１～22とした。現地で設営した基準杭は、グリッドの西北角に配置し、６ケ所の基準杭（A～F）を設置した(表3)。

表３　グリッド数値

杭	X	Y	H
A	-217662.008	-59334.244	217.106
B	-217652.008	-59274.244	219.639
C	-217642.008	-59294.244	220.254
D	-217622.008	-59314.244	216.293
E	-217622.008	-59284.244	219.175
F	-217602.008	-59284.244	219.974
G	-217672.008	-59324.244	217.744
H	-217632.008	-59304.244	218.397
I	-217622.008	-59264.244	216.437
J	-217582.008	-59284.244	218.393
K	-217572.508	-59294.244	216.249

（２）調査地点の設定

長岡南森遺跡確認調査委員会の指導を踏まえて調査地点を検討し、地権者の発掘承認が得られた

範囲内にトレンチを設定した。

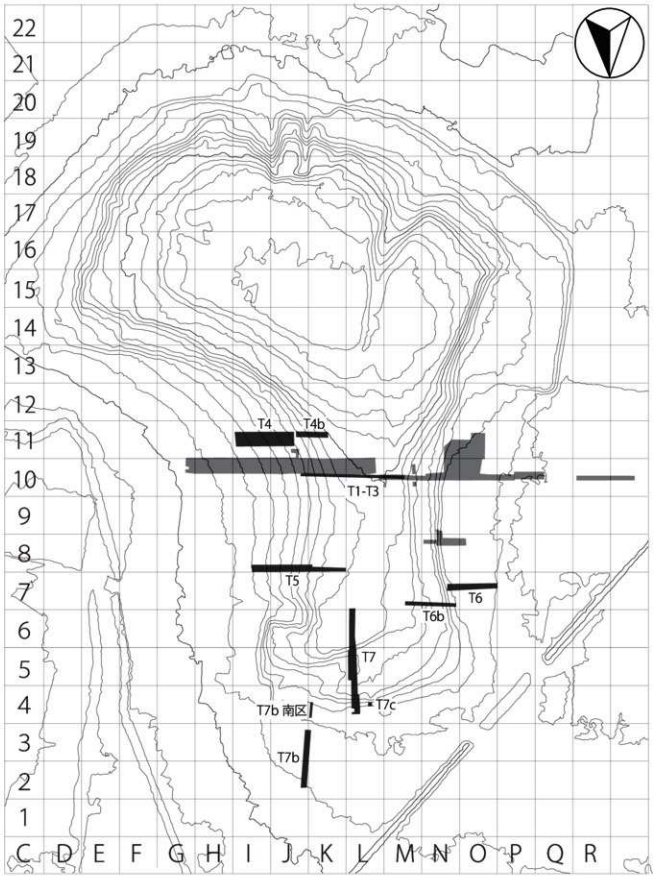
J10 － M10G に T1 － T3、I11 － K11G に T4、I8 － K8G に T5、N7 － O7G に T6、M7 － N7G に T6b、L4 － L6G に T7、J3 － J2G に T7b の計 7 地点を設定した。また、L4G に T7c、J11 － K11G に T4b を追加した（第 74 図）。

（3）発掘調査

T1 － T3 は重機で掘削をした。T4・T5 は人力で浅いサブトレンチを掘ったのち重機で表土の除去を行った。T4、T5、T6、T6b、T7、T7b では、重機で表土した除去した後、サブトレンチで土層を確認した後にトレンチ全体を掘り下げた。その後調査トレンチの平面図および断面図の記録を行い、遺物は出土状況を図化、写真記録をした上で取り上げた。

第三次調査となる発掘は、地権者の承諾を得た上で 6 月 1 日～ 8 月 6 日の期間で実施した。詳細は以下の通りである。

6 月 1 日（月）トレンチ予定地周辺と通路の支障木伐採。支障木を避けた T7 配置の検討。
6 月 4 日（木）T1 － T3、T4、T6 の設定作業。T7b の予定地について地権者と協議しその位 置を東に移動。
6 月 5 日（金）T1 周辺草刈り。
6 月 8 日（月）作業員顔合わせ、諸注意等伝達。資材搬入作業。テント設営予定地付近の草刈り、通路整備。テント組み立て。T7 周辺草刈り、T7 設定、T7 表土掘り下げ開始。
6 月 9 日（火）道具手入れ。T7 掘り下げ、地山を検出し、ほぼ掘り下げ完了。T5 周辺草刈り、設定作業。T4 周辺草刈り。
6 月 10 日（水）T6 周辺草刈り。T5 サブトレンチ掘り下げ。T7 平面図作成。
6 月 11 日（木）T5、T6 サブトレンチ掘り下げ。T7 平面図・コンタ図作成。T7 北端部調査。
6 月 12 日（金）T6 掘り下げ。T7 平面図作成、写真撮影、西壁土層確認。T4 外周サブトレンチ掘り下げ、周辺草刈り。
6 月 15 日（月）T7 西壁断面図作成。T6 掘り下げ。T4・T5 の表土剥離（重機）、T1 － T3 掘り下げ（重機）、壁切り。T5 壁切り、根除去。
6 月 16 日（火）T6 遺物記録後取り上げ、T6 面整理。T4 壁切り、根除去。T1 － T3 壁切り、写真撮影。土嚢づくり。
6 月 17 日（水）T7 図化。T4・T6 サブトレンチ掘り下げ。T1 － T3 壁切り。
6 月 18 日（木）T6 掘り下げ。T4 壁切り、面整理。T1 － T3 断面図作成。
6 月 19 日（金）T4 掘り下げ。T4 面整理。T1 － T3 土色注記。T4 ベルトを残し掘り下げ外
6 月 22 日（月）周の平面図作成、遺物記録。T4 積面整理、写真記録、平面図作成。T6 サブトレンチ掘り下げ、壁切り。T6b 設定、周辺草刈り。
6 月 23 日（火）T4 南壁図化、遺物記録。T5 サブトレンチ掘り下げ。T6b サブトレンチ掘り下げ。T6 平面図作成。
6 月 24 日（水）T6b 掘り下げ。T5 掘り下げ、壁切り。T4 壁断面図作成、遺物写真撮影。



第 74 図　長岡南森遺跡平面図

6月25日（木）T6壁断面図作成。T5、T6b掘り下げ。T4西壁付近の地山上の土を半裁、断面図作成。T7b設定、土留め板設置。

6月26日（金）朝方降雨により道具手入れとテント内片付け。T5仮杭設置、面整理、壁切り、遺物記録。T6断面図作成。

6月29日（月）T7b掘り下げ。T5のSD2掘り下げ、低地部掘り下げ。T4西壁付近半裁部の断面記録。T5低地部より複数の器台、その他出土。

6月30日（火）終日断続的に降雨。T5掘り下げ、遺物記録、平面図作成。T7b掘り下げ。T6写真撮影、東壁断面図作成。雨のため16：45終了。

7月1日（水）朝方降雨により道具手入れ。終日断続的に小雨。T5予定より短縮していたものを予定通り西側へ1m幅で延長し掘り下げ。T7b掘り下げ、遺物記録。T5低地部掘り下げ、遺物記録。T7bのSD5上層より須恵器等遺物出土。

7月2日（木）T5遺物写真撮影。T7b掘り下げ、壁切り、遺物写真撮影。T6b平面図作成。T4掘り下げ。

7月3日（金）T1－T3、T6．T6b清掃、写真撮影。T4掘り下げ、T5遺物写真撮影、遺物取り上げ。

7月6日（月）昨日までの雨で汚れた各トレンチ清掃、崩れた壁切り直し。午後に長岡南森確認調査委員会開催、現地指導。

7月7日（火）委員会で指摘を受けた箇所への対応。T6サブトレンチ掘り下げ。T7b掘り下げ。

7月8日（水）雨天につき現場休み。

7月9日（木）T5、T6排水作業。T5サブトレンチ掘り下げ、SD3掘り下げ。T6サブトレンチ掘り下げ、湧水多い。T6b壁断面作成。T7bの西側10m、20mでボーリングステッキによる土層調査。

7月10日（金）排水作業。T6サブトレンチ掘り下げ。T6b北壁断面図作成。T5のSD3掘り下げ。T7bサブトレンチ掘り下げ。T7bの西側ボーリングステッキ調査の補足調査。

7月13日（月）排水作業。T6サブトレンチ掘り下げ。T6b壁断面図作成、写真撮影。T4西端掘り下げ。T5、T7面整理。T7b壁断面図作成。

7月14日（火）雨天につき現場休み。

7月15日（水）T6排水作業、南壁追加図面作成。T4コンタ図作成。T6b壁土層注記、清掃、写真撮影。T5、T1－T3壁断面図作成。

7月16日（木）排水作業。T5昨日の大雨で壁面崩落3か所を削り、壁断面図記録。T7壁切り直し、再整理。T1－T3南壁断面図記録。T7b掘り下げ。昨日の大雨で各トレンチで壁崩落数か所、湧水のため排水を断続的に行う。

7月17日（金）排水作業。T6写真撮影。T7b掘り下げ。T5南壁断面図作成、写真撮影。T7壁切り、再整理。

7月20日（月）T5土層注記、写真撮影。T7b、T7b南区コンタ図作成・T6bコンタ図作成。T7再整理。
7月21日（火）T5写真撮影。T4コンタ図作成、北壁補足図化。T4b設定、掘り下げ。T6b壁断面図追加作図。T7b北端の礫群記録。T7東壁断面図記録、西壁追加作図。
7月22日（水）T4写真撮影。T5コンタ図作成。T7北端礫群写真撮影。T4b掘り下げ、壁切り。T7c設定、掘り下げ。
7月27日（月）T4b掘り下げ。T4平面図作成。T7b壁断面図作成。
7月28日（火）大雨のため現場休み。
7月29日（水）T7bトレンチ満水、各トレンチ排水作業。T4b平面図作成、壁断面図作成。T7c壁断面図作成。
7月30日（木）排水作業。午前中、長岡南森遺跡確認調査委員会開催、現地指導。T7b南区掘り下げ、写真撮影。T7北端サブトレンチ掘り下げ、壁断面図作成。T4南サブトレンチ掘り下げ、北サブトレンチ掘り下げ。
7月31日（金）雨天により現場休み。
8月3日（月）T4b清掃、写真撮影。T4南壁壁切り、再図化。T7b南区壁断面記録。T6b人力埋め戻し開始。
8月4日（火）排水作業。T6サブトレンチ掘り下げ、断面図追加、写真撮影。T4南壁再図化。T7西端壁再図化。T6b人力埋め戻し。
8月5日（水）報道機関向け現地説明会開催。T6人力埋め戻し。T7西壁再図化。T4北壁再図化。
8月6日（木）T4壁図面の確認、土色注記。T6、T7人力埋め戻し、その他は重機による埋め戻し。撤収作業。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

南陽市は、山形県南部の米沢盆地北東部にあたり、北緯 38° 1′11″ ～ 38° 13′25″、東経 140° 14′11″ ～ 140° 14′17″ に位置する。市域の南北は約 22.6km、東西は約 14.8km で、面積は約 160.70km²である。

市域北部は山地で、最北端には白鷹山がそびえ、南部は宮内扇状地である。東には低湿地帯として知られる大谷地が広がる。北部吉野地区から南流した吉野川は赤湯地区を流れ、高畠町との境で急に西に向きを変えて屋代川と合流したのち最上川に流れ込む。

長岡南森遺跡の所在地は、南陽市長岡字南森、字南森西、字清水尻、字西田中南、字西田、狙柳字六百刈である。南森丘陵の主要地番は長岡字南森 1650 番地の１である。

長岡南森遺跡はＪＲ赤湯駅から南東約 1.2km に、また国指定史跡稲荷森古墳の南東方向約 130m に位置する。遺跡の東には国道 399 号が通り、遺跡と国道の間に長岡地区の集落が広がる。

近年、南森丘陵隣接地の宅地化が進んでいる。丘陵北半部は主に果樹園や畑地として利用されていたが休耕地が増えている。丘陵南半部は林で、その中に失止八幡宮、神明神社、近世墓地がある。

第２節　周辺の歴史的環境

長岡南森遺跡周辺は長い歴史の中で人々に豊かな自然の恵みを与えた白竜湖大谷地に囲まれた洪積世の台地の一部であり、これらの地域ではその生活の様子がうかがえる遺跡が数多く、また旧石器～縄文～古墳～古代～中世と長期にわたる遺構や遺物が確認されている。

縄文時代の遺跡は大谷地周辺に多く分布し、中でも長岡南森遺跡から東側 1.5km 先では、低湿地の集落跡である押出遺跡が確認された。

弥生時代の代表的な遺跡としては、弥生中期の墓跡である百刈田遺跡や、石包丁が出土した萩生田遺跡がある。

古墳時代の遺跡として、全長 96m の前方後円墳である稲荷森古墳や長岡山遺跡の方形周溝墓群が確認されている。

古代の遺跡では、南森丘陵の北西約 600m に位置する矢ノ目館跡からは道路跡が、長岡山遺跡からは円面硯や墨書土器など官衙等の存在をうかがわせる遺物も出土している。

中世の遺跡では、長岡山丘陵上に湯野目氏が居住したと伝わる長岡館跡があり、南森丘陵上にも南森館跡があったと推測される。南森丘陵の南側では旧河道を挟んで内城館跡が立地し、さらに南には鵜ノ木館跡がある。

Ⅲ　調査の概要

第１節　現況地形の把握

第１～３次確認調査の調査地とした丘陵北半部は幅約 62m、長さ約 75m、上から見ると北辺が長い台形状の地形である。尾根頂は概ね平坦で、西側斜面には標高 218m 付近に帯状に幅 4.5 ～ 5.5m の段状の地形が見られる。従前の調査で検出された段状斜面一段目は埋没しており地表では目視できない。

東側斜面は現状はブドウ園跡の緩傾斜地である。地権者より昭和 40 年頃に斜面を重機で削平したことや、当時の地形について伺った。

（１）第１―第３連結トレンチ（T1 － T3）

丘陵尾根部の地山及び盛土を確認する目的で尾根部を横断するトレンチとして計画した。第１トレンチと第３トレンチを連結し、J10 ～ M10G の範囲に幅 0.9 ×長さ 27.3m のトレンチを設定した。調査面積は 24.57㎡である。

段状斜面の三段目を断ち割り、土層は表土層と地山のみ把握された。地山自体が古い崩壊地形の複雑な堆積状況を示す。明確な盛土は確認できなかった。

（２）　第４トレンチ（T4）

T4 は丘陵北半部の東斜面に設定した。東側のくびれ部を確認するため幅４m ×長 25m のトレンチを計画した。調査開始の遅延を受けて当初は調査範囲を縮小し、幅４m ×長 16m のトレンチとして I11 ～ J11G に設定した。またその西側に幅 1.5m × 8.5m の拡張トレンチを設定して T4b とした。T4 はおよび T4b は I11 ～ K11G の範囲で、調査面積は約 76.75㎡である。

①地形

段状斜面三段目に相当する地山削り出しの段を検出し、その上端・下端が南東に屈曲することを確認した。段状斜面一段目から二段目に相当する段は著しく削平を受けている状況が把握された。地山は南東方向に向かって屈曲している。

②遺物の出土状況

遺物は、段状斜面二段目の平坦面上から器台等の古墳時代の土師器が出土した。耕作土及び攪乱層からは縄文土器片及び有溝砥石や摺切磨製石斧片等の石器、土師器が出土した。

（３）　第５トレンチ（T5）

T5 は丘陵北半部の東斜面に設定した。幅２m ×長 16m のトレンチとして設定したが、後に西側に幅１m ×長９m の拡張し、I8 ～ K8G の範囲のトレンチとした。調査面積は約 41㎡である。

①地形

段状斜面一段目、二段目、三段目の三つの地山削り出しの段状地形を検出した。段状斜面三段目は大きく削平を受けている。段状斜面二段目は削平によって平坦面がほとんど残っていない。地権者の話では削平されたらしいが詳細は不明である。段状斜面一段目は後世の溝跡（SD3）により削平されている。

②遺構

段状斜面二段目の溝跡（SD2）を検出した。段状斜面一段目の平坦面で幅約 1m の溝跡（SD3）を検出した。覆土に焼土を含む土坑（SK5）を検出した。

③遺物の出土状況

段上斜面三段目の底面から二重口縁土器の口縁部が出土した。1 段目平坦面上から土師器が出土した。SD2 から古代の土器が出土した。SD3 から古墳時代の器台等の土師器や古代の土器が出土した。SK5 から須恵器が出土した。

（4）第 6 トレンチ（T6）

T6 は丘陵北半部の西斜面に設定した。当初予定した場所は畑地として利用されているため南へ移動した。幅 1.5m ×長 30m のトレンチを予定していたが樹木があるため幅 1.5m ×長さ 13.4m のトレンチとして N7 ～ O7G に設定した。調査面積は約 20.1㎡である。

①地形

段状斜面一段目の段状地形を検出した。

②遺構

段状斜面一段目の平坦面に地山を掘り込んだ幅約 80㎝の溝跡（SD1）を検出した。時期は不明である。段状斜面一段目の斜面に炭を多く含む直径約 1.1m の近世の土坑を検出した。

（5） 第 6 b トレンチ（T6b）

T6b は丘陵北半部の西斜面に設定した。T6 の段状斜面二段目の裾から東の範囲を調査実施可能な地点に再設定したものである。幅 1m ×長さ 13.8m のトレンチとして M 7 ～ N 7 G に設定した。調査面積は約 13.8㎡である。

①地形

段状斜面二段目の地山削り出しの段状地形を検出した。その肩部は削平の影響を受けているとみられる。段状斜面三段目の裾に相当する点を検出した。

②遺構

段状斜面二段目の平坦面で幅約 50cm の溝跡（SD4）を検出した。

（6） 第 7 トレンチ（T7、T7c）

T7 は丘陵北半部の北斜面に設定した。L4 ～ L6G に幅 2 ～ 4 m ×長さ 27.7m のトレンチとして設定した。調査面積は約 44.56㎡である。

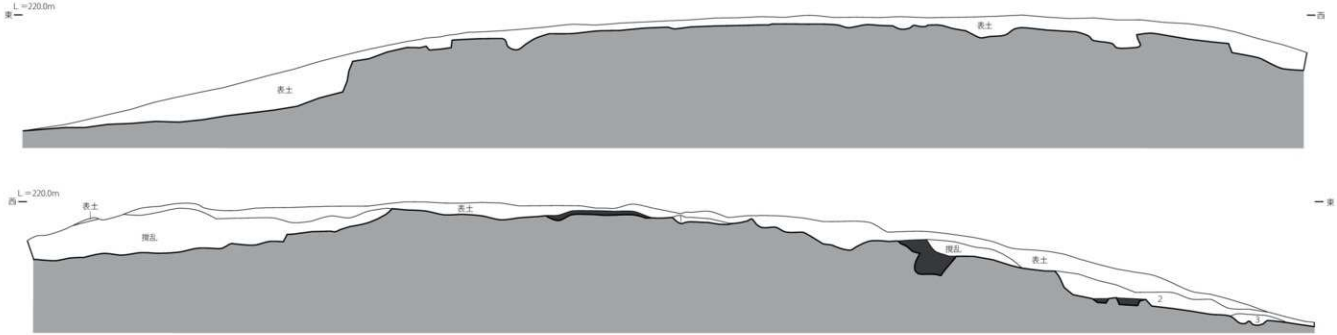
段状斜面二段目裾部で礫群が検出され、その状況を確認するため T7 北端の西側に幅 1 m × 長さ 1 m の試掘穴（T7c）を追加した。T7c の調査面積は 1 ㎡である。

①地形

段状斜面一段目平坦面から三段目までの地山削り出しの地形を検出した。段状斜面二段目平坦面に攪乱が存在し重機で掘った跡ではないかと思われる。

②遺構

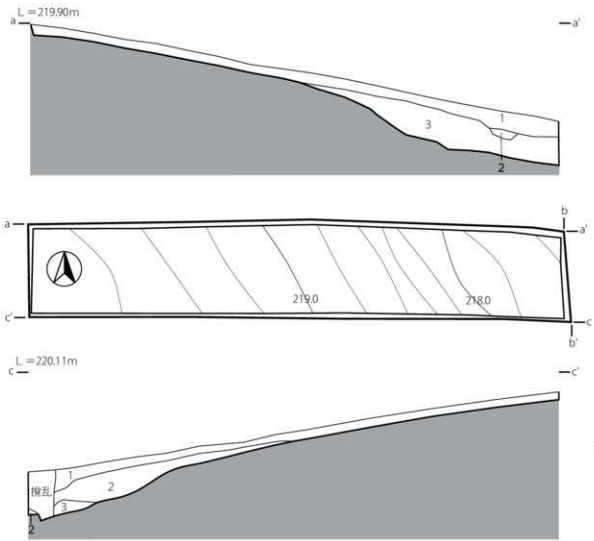
段状斜面二段目の裾から段状斜面一段目平坦面にかけて直径 4 ～ 20cm の礫群が検出された。礫は T7b 南区及び T7c でも確認される。礫は 5 ～ 10cm 大の円形・角形のものが混在し、



T1-T3 北壁
1．5YR4/6　赤褐色粘土　（白色砂均一に混じる）
2．10YR3/3　暗褐色粘土　（白色砂均一に混じる）
3．10YR2/1　黒色粘土　しまりあり　（白色砂均一に混入、土器片と粒混入）

0　2m
S=1:80

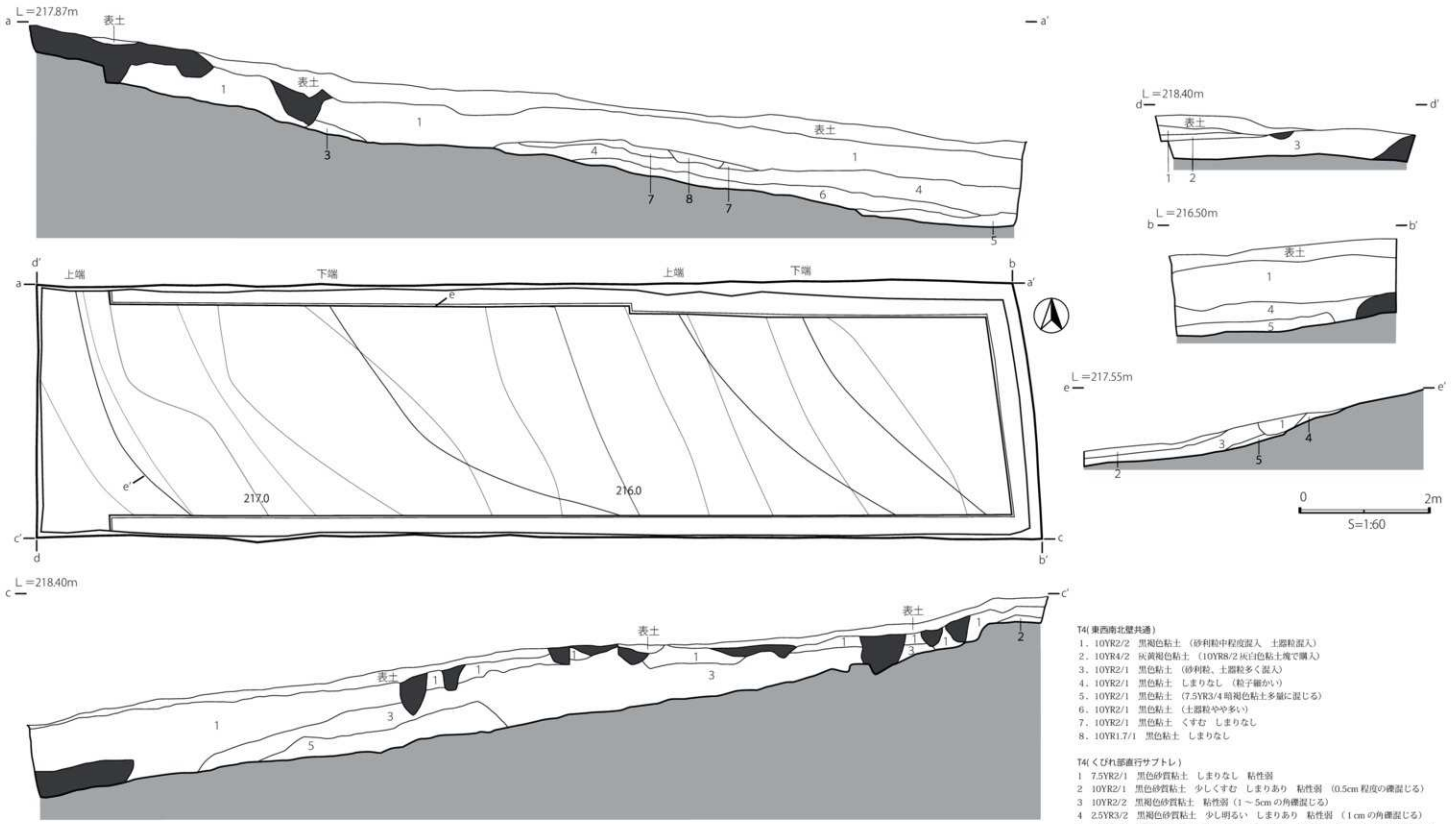
第 75 図　T1 － T3 トレンチ断面図



T4b（東西南北壁共通）
1．10YR3/2　黒褐色砂質粘土　しまりなし　粘性弱
2．10YR3/2　黒褐色砂質粘土　しまりなし　粘性弱　（地山の土混じる）
3．10YR4/3　にぶい黄褐色砂質粘土　しまりなし　粘性強　（地山の土混じる）

0　2m
S=1:60

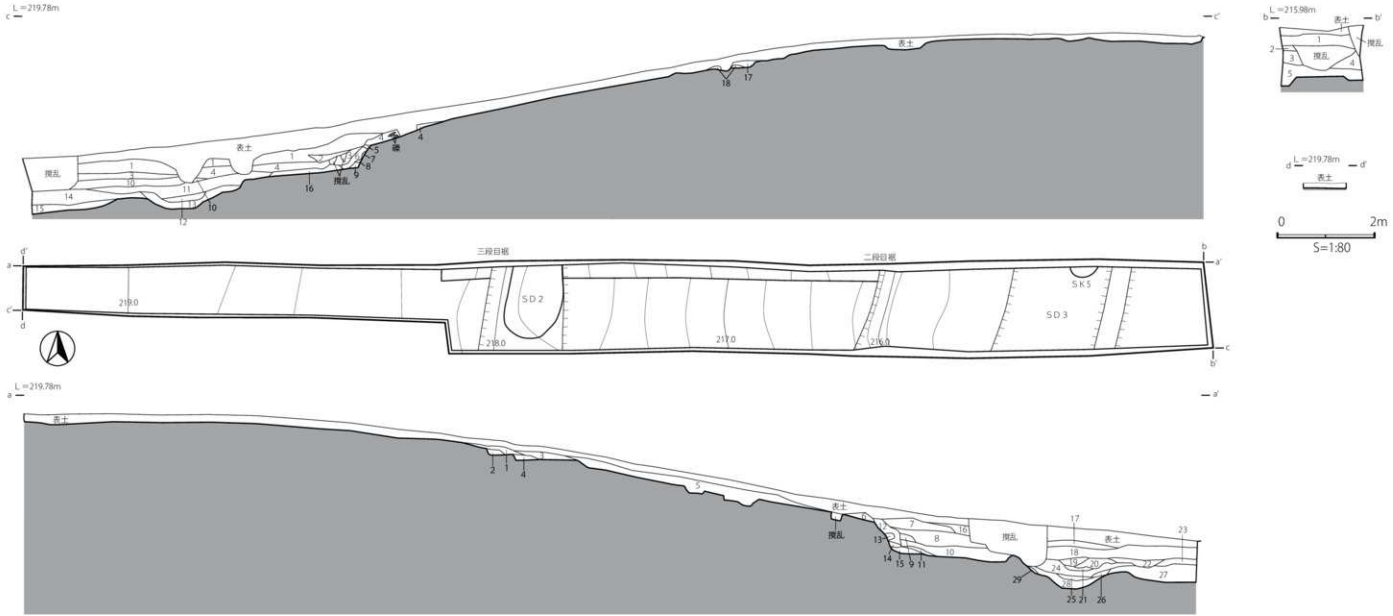
第 76 図　T4b トレンチ断面図



T4（東西南北壁共通）
1．10YR2/2　黒褐色粘土　（砂利粒中程度混入　土器粒混入）
2．10YR4/2　灰黄褐色粘土　（10YR8/2 灰白色粘土塊で縞入）
3．10YR2/1　黒色粘土　（砂利粒、土器粒多く混入）
4．10YR2/1　黒色粘土　しまりなし　（粒子細かい）
5．10YR2/1　黒色粘土　（7.5YR3/4 暗褐色粘土多量に混じる）
6．10YR2/1　黒色粘土　（土器粒やや多い）
7．10YR2/1　黒色粘土　くすむ　しまりなし
8．10YR1.7/1　黒色粘土　しまりなし

T4（くびれ部直行サブトレ）
1　7.5YR2/1　黒色砂質粘土　しまりなし　粘性弱
2　10YR2/1　黒色砂質粘土　少しくすむ　しまりあり　粘性弱　（0.5cm 程度の礫混じる）
3　10YR2/2　黒褐色砂質粘土　粘性弱（1 ～ 5cm の角礫混じる）
4　2.5YR3/2　黒褐色砂質粘土　少し明るい　しまりあり　粘性弱　（1 cm の角礫混じる）
5　10YR2/2　黒褐色砂質粘土　少し明い　しまりあり　粘性弱　（0.5cm 程度の角礫混じる）

第 77 図　T4 トレンチ断面図

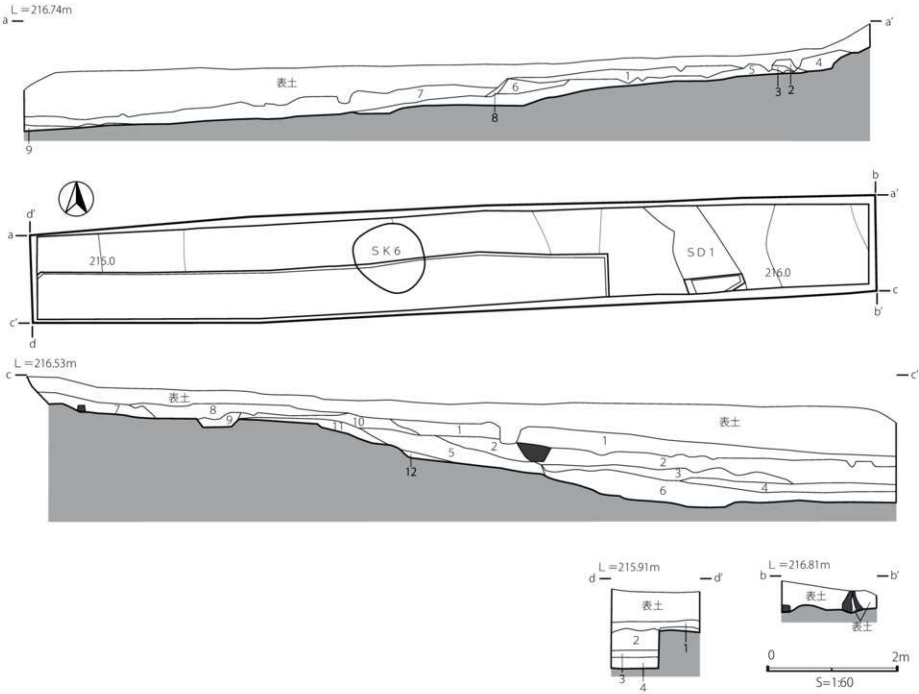


T5(東壁)
1．10YR2/2　黒褐色砂質粘土
2．10YR2/1　黒色粘土　しまりなし
3．10YR2/1　黒色粘土　しまりなし
4．10YR1.7/1 黒色粘土　しまりなし　粘性強
5．10YR3/1 黒褐色粘土　しまりややあり　粘性強

T5(南壁)
1．10YR3/3　暗褐色砂質粘土　しまりあり　粘性弱　(細砂、0.5cm 程度の角礫混じる)
2．10YR3/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり　粘性弱　(0.5cm 程度の礫混じる)
3．10YR2/1　黒色砂質粘土　しまりややあり　粘性弱　(粗砂混じる)
4．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり　粘性弱
5．10YR3/4　暗褐色砂質粘土　しまりややあり　粘性弱
6．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりややあり　粘性弱　(0.3 ～ 0.5cm 礫混じる)
7．10YR5/6　黄褐色粘土　しまりなし　粘性強
8．10YR2/3　黒褐色砂質粘土　しまりなし　粘性強　(砂少ない)
9．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりややあり　粘性弱　(細砂、地山の土混じる)
10．10YR2/1　黒色粘土　しまりなし　粘性強　(10YR3/2 黒褐色粘土混じる、粗砂混じる)
11．10YR2/1　黒色粘土　少しくすむ　しまりなし　粘性強 (SD3)
12．10YR2/2　黒褐色粘土　しまりなし　粘性強　(地山の土混じる) (SD3)
13．10YR2/1　黒褐色シルト粘土　しまりなし　粘性強 (SD3)
14．10YR1.7/1　黒色粘土　しまりなし　粘性強
15．10YR3/1 黒褐色粘土　しまりなし　粘性強
16．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりややあり　粘性強　(10YR3/3 暗褐色粘土混じる)
17．10YR2/3　黒褐色粘土　しまりあり　(0.5cm 黄白色礫混じる)
18．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト粘土　(10YR2/3 黒褐色粘土岡に混じる)

T5(北壁)
1．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり
2．10YR2/3　黒褐色粘土　しまりあり　(三段目堀部)
3．10YR2/1　黒色粘土
4．7.5YR2/2　黒褐色粘土　しまりなし　(SD2 覆土)
5．10YR2/2　黒褐色粘土　(2.5YR5/6 黄褐色粘土岡に混じる)
6．10YR1.7/1　黒色粘質砂層
7．10YR3/1　黒褐色砂質粘土　しまりあり　(粗砂混じる)
8．10YR3/2　黒褐色砂質粘土　(粗砂、須恵器混じる)
9．7.5YR2/1　黒色砂質粘土　(10YR2/2 黒褐色粘土混じる)
10．10YR2/1　黒色砂質粘土　しまりあり (粗砂多く混じる)
11．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり
12．10YR2/1　黒色粘土
13．10YR3/3　暗褐色粘土
14．10YR5/4　にぶい黄褐色粘土
15．10YR2/1　黒色粘土　しまりあり　(粗砂混じる)
16．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　(細砂)
17．10YR2/3　黒褐色砂質粘土　(粗砂多く混じる)
18．10YR2/2　黒褐色砂質粘土
19．5YR2/1　黒褐色砂質粘土　(細砂、焼土・炭混じる、須恵器混じる) (SK5)
20．5YR1.7/1　黒色砂質粘土　(細砂、焼土・炭混じる、土器混じる) (SK5)
21．7.5YR1.7/1　黒色砂質粘土　(細砂、新しい土代)
22．7.5YR3/1　黒褐色粘土　しまりなし (細砂微量混じる)
23．10YR2/1　黒色粘土　しまりなし
24．7.5YR2/1　黒色粘土　しまりなし　(細砂微量混じる、SD3)
25．10YR2/2　黒褐色シルト粘土　しまりなし (SD3)
26．7.5YR1.7/1　黒色粘土　しまりなし (粗砂微量混じる) (SD3)
27．10YR2/1　黒色粘土　しまりなし
28．2.5YR2/1　黒色粘土　しまりなし　(SD3)
29．7.5YR3/1　黒褐色粘土　(やや明るい)

第 78 図　T5 トレンチ断面図

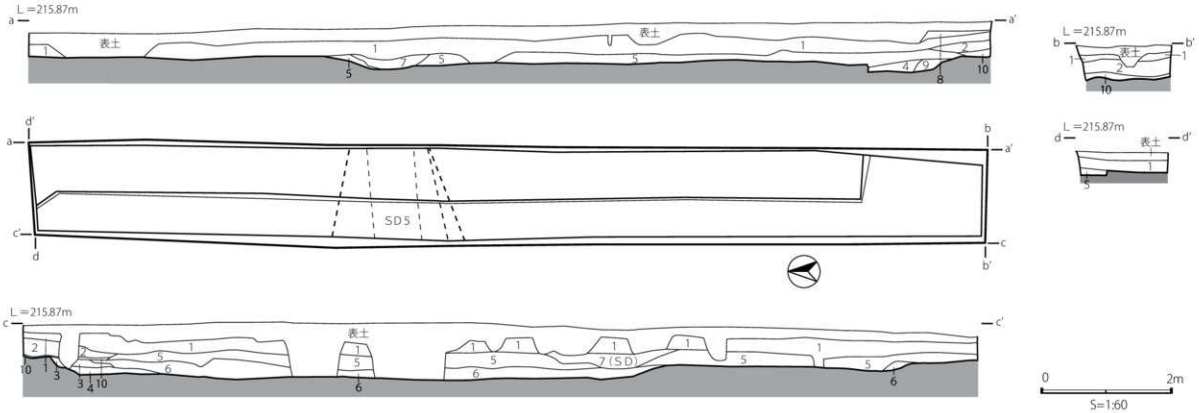


T6(西壁)
1．7.5YR2/1 黒色砂質粘土 しまりあり 粘性弱
2．10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりなし 粘性弱 (0.1～0.5cmの丸礫混じる)
3．10YR4/3 にぶい黄褐色シルト粘土 しまりなし
4．10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりなし

T6(南壁)
1．10YR2/2 黒褐色粘土
2．10YR2/3 黒褐色砂質粘土 (細砂)
3．10YR2/3 黒褐色粘質砂質 (中砂)
4．10YR4/3 にぶい黄褐色シルト粘土 しまりなし
5．10YR2/2 黒褐色砂質粘土 (中砂)
6．10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりなし
7．10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまりあり 粘性弱
8．10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりあり 粘性弱
9．10YR2/1 黒色砂質粘土 粘性弱 (SD1)
10．10YR2/3 にぶい黒褐色砂質粘土 しまりなし 粘性弱 (細砂)
11．10YR2/3 黒褐色粘土 (細砂わずかに混じる)
12．10YR2/3 黒褐色シルト粘土 (細砂混じる)

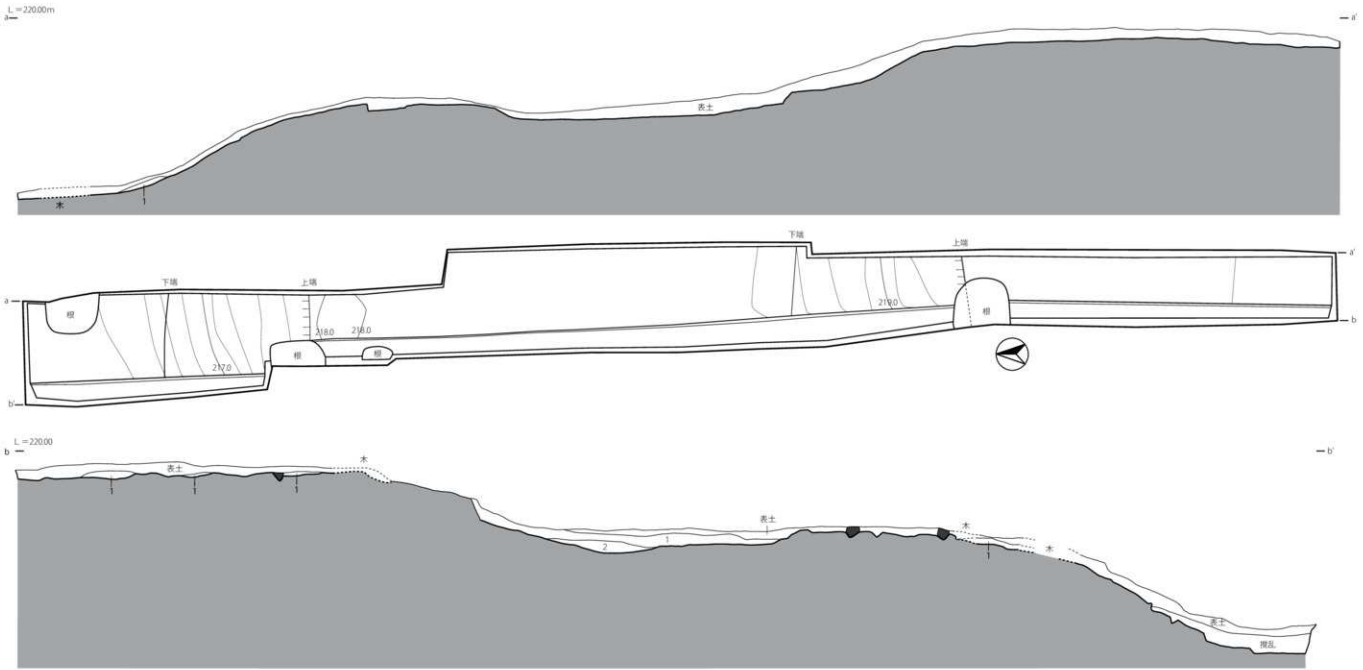
T6(北壁)
1．10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性弱 (砂少し粗い、0.1～1cmの角・丸礫混じる)
2．10YR4/4 褐色砂質粘土 粘性弱 (粗砂混じる)
3．10YR3/4 暗褐色砂質粘土 粘性弱 (粗砂混じる、10YR4/6 褐色砂質粘土混じる)
4．10YR5/4 にぶい黄褐色砂質粘土 しまりあり 粘性弱 (0.5cm程度の角礫混じる)
5．7.5YR2/3 極暗褐色砂質粘土 粘性弱
6．10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまりあり 粘性弱 (1cm程度の角礫層に混じる)
7．7.5YR2/1 黒色砂質粘土 粘性弱 (粗砂混じる)
8．10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりなし 粘性弱 (10YR3/2 暗褐色砂質粘土混じる)
9．10YR3/3 暗褐色粘質砂土 粘性弱 (粗砂混じる)

第79図 T6トレンチ断面図



T7b(東西南北壁共通)
1．10YR2/3　黒褐色砂質粘土　しまりあり　(0.1 ～ 1 cm の礫混じる)
2．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり　(粗砂混じる)
3．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粘土　しまりあり　(3cm 程度の礫混じる)
4．10YR2/1　黒色粘土
5．7.5YR3/4　暗褐色粘質砂　しまりあり
6．10YR4/2　灰黄褐色粘質砂　しまりなし
7．10YR2/1　黒色砂質粘土　しまりなし　(SD5、土器混じる)
8．10YR1.7/1　黒色砂質粘土　しまりなし
9．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり　(0.5cm 程度の礫混じる)
10．10YR2/1　黒色粘質砂質　しまりなし　(鉄錆化、直径 0.2 ～ 3cm 礫混じる)

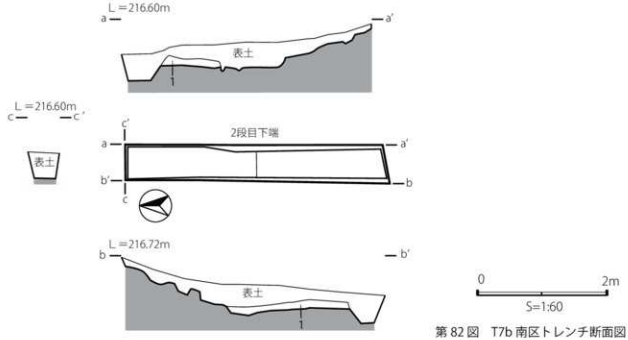
第 80 図　T7b トレンチ断面図



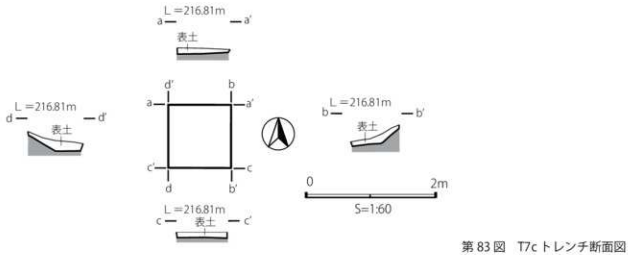
T7（東壁）
1．10YR3/4 暗褐色粘土　しまりなし

T7（西壁）
1．10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　白砂均一に混じる
2．10YR3/4　暗褐色粘土　しまりなし

第 81 図　T7 トレンチ断面図



第 82 図　T7b 南区トレンチ断面図



第 83 図　T7c トレンチ断面図

T7b(東西南北壁共通)
1．10YR2/3　黒褐色砂質粘土　しまりあり　(0.1 ～ 1cm の礫混じる)
2．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり　(粗砂混じる)
3．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粘土　しまりあり　(3cm 程度の礫混じる)
4．10YR2/1　黒色粘土
5．7.5YR3/4　暗褐色粘質砂　しまりあり
6．10YR4/2　灰黄褐色粘質砂　しまりなし
7．10YR2/1　黒色砂質粘土　しまりなし　(SD5、土器混じる)
8．10YR1.7/1　黒色砂質粘土　しまりなし
9．10YR2/2　黒褐色砂質粘土　しまりあり　(0.5cm 程度の礫混じる)
10．10YR2/1　黒色粘質砂層　しまりなし　(鉄錆化、直径 0.2 ～ 3cm 礫混じる)

T7b(南区西壁)
1．10YR4/4　褐色砂質粘土　少しくすむ

T7b(南区東壁)
1．10YR4/4　褐色砂質粘土　少しくすむ

礫の配置の規則性は見られない。段状斜面の平坦面には現代の攪乱が見られた。

③遺物の出土状況

T7c では段状斜面二段目の裾から器台等の土師器が出土した。

（7） 第７ｂトレンチ（T7b）

T7b は丘陵の北側の平地に設定した。本来は T7 を北側に延長した地点に計画していたが果樹園のため地権者立会いのもとで位置を東にずらし、J2 ～ J3G に幅 1.5m ×長さ 15m のトレンチを設定した。さらに T7b と道路を挟んで南側に T7b 南区として幅 0.55m ×長さ 4.2m のトレンチを設定した。調査面積は合わせて約 24.81㎡である。

①地形

T7b 南区では段状斜面二段目の裾と一段目の平坦面が検出された。段状斜面一段目の先端は道路の下に位置しているとみられ、ボーリングステッキによる調査では、T7b 南西角から南へ 70cm の地点では地表下 38cm、1.44m の地点では地表下 6cm で地山と思われる硬い層にあたる。T7b の南壁から北へ 13.7m の地点で地山が立ち上がり、浅い溝状になる状況を確認した。

②遺構

幅 1.2 ～ 2 m の古代の遺物を含む溝跡（SD5）を検出した。また、南壁から北へ 13.7m 幅の浅い溝状の低地が確認された。この溝状の低地の東西方向の連続性を確認するため、ボーリングステッキによる調査を行った。T7b から西側に 10m 及び 20m 離した位置に、T7b と並行になるように北から南に向かって 1 ～ 2 m 間隔でボーリングステッキによる土層調査を行った。

③遺物の出土状況

溝状低地の底面から古墳時代の土師器が出土した。第 1 層からは古墳時代の土師器と古代の土器が出土した。SD5 からは、古墳時代の土師器と古代の土器が出土した。

Ⅳ 遺物

今回の調査で、縄文時代の土器片・石器（石鏃・凹石等）、古墳時代前期の器台・壺等の土師器・土器片、8 ～ 9 世紀の須恵器坏、龍泉窯青磁碗（15 世紀・劃花文）[註] まで幅広い時期の遺物が出土した。今年度分については形状が明確なものについてのみ写真図版での報告とし、詳細な報告は次年度以降とする。

註）青磁碗については高桑登氏よりご教示にいただいた。

長岡南森遺跡発掘調査写真図版

長岡南森遺跡作業風景

稲荷森古墳からみる長岡南森遺跡現況（北より）

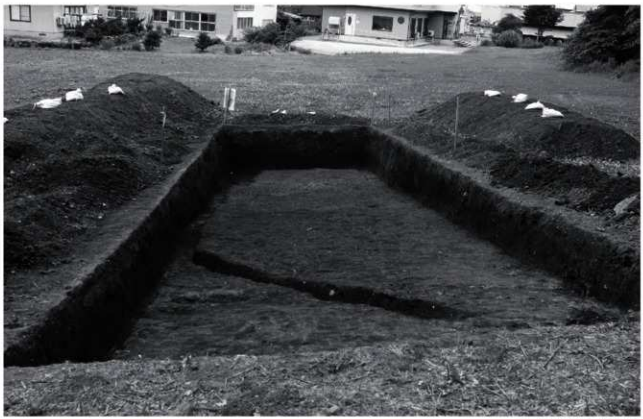
長岡南森遺跡現況（北西より）

T1 － T3 調査状況（東より）

T1 － T3 調査状況（東より）

T1 － T3 調査状況（西より）

T1 － T3 調査状況
写真図版 2



T4 調査風状況（西より）

T4 土層断面（西より）

T4 西端調査状況景（北西より）

T4 土層断面（西より）

T4・T4b 調査状況（東より）

T4b 調査状況（東より）

T4・T4b 調査状況
写真図版 4

T5 調査状況（東より）

T5 調査状況（西より）

T5 土層断面（北より）

T5 調査状況（南東より）

T5 遺物出土状況（西より）

T5 遺物出土状況（西より）

T5 調査状況

写真図版 5

T6 調査状況（西より）

T6 調査状況（西より）

T6 調査状況（西より）

T6 土層断面（西より）

T6 調査状況（南東より）

T6 調査状況

写真図版 6

T7 調査状況（北より）

T7 調査状況（南より）

T7 調査状況（北より）

T7b 調査状況（南西より）

T7b 調査状況（南東より）

T7b 調査状況（南より）

T7b 調査状況

写真図版 8

T7b 南区調査状況（北より）

T7b 南区調査状況（北より）

T7c 調査状況（北より）

長岡南森遺跡出土器台

長岡南森遺跡出土壺

長岡南森遺跡出土遺物（1）
写真図版 10

長岡南森遺跡出土須恵器

長岡南森遺跡出土龍泉窯青磁碗

1 (RP2)

2 (RP4)

3 (RP3.4)

4 (RP5)

6 (RM5)

5 (RM2.3)

西原東遺跡出土遺物

写真図版 12

報告書抄録

ふりがな	なんようしいせきぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	南陽市遺跡分布調査報告書（9）
副書名	市内遺跡分布調査・第三次長岡南森遺跡確認調査（概報）
巻次	
シリーズ名	南陽市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第22集
編著者名	角田朋行　吉田江美子
編集機関	南陽市教育委員会
所在地	〒999-2292　山形県南陽市三間通436番地1　TEL 0238-40-3211
発行年月日	2021年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
市内遺跡	山形県 南陽市 地内	6213	－	－	－	2020	－	－
ながおかみなみもりいせき 長岡南森遺跡	やまがたけん 山形県 なんようし 南陽市 ながおかあざみなみもり 長岡字南森 1650-1 他	6213	052	38° 02′ 13″	140° 9′ 28″	20200601 ～ 20200806	246.59	遺跡確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市内遺跡	－	－	－	－	－
ながおかみなみもりいせき 長岡南森遺跡	散布地	縄文時代・古墳時代・古代・中世	溝跡	縄文土器・土師器・須恵器・青磁碗	長岡字南森丘陵においてトレンチ調査を行い、遺跡の性格・時代等を確認した。

要約

市内遺跡：市内における各種開発事業に伴う踏査、試掘調査、立会調査及び広域調査。

長岡南森遺跡：本遺跡は南陽市内の国指定史跡の前方後円墳・稲荷森古墳から南東へ130ｍに位置する独立丘陵に位置する。長岡南森遺跡は、南森と呼ばれる独立丘陵地を中心とする遺跡である。丘陵の形状が前方後円墳に似ていることから昭和53年に稲荷森古墳調査団が確認し、平成5年度に南陽市教育委員会で踏査を続けてきたが、平成28年度に市教育委員会遺跡の現状把握と今後の調査及び遺跡保護の基礎資料を得ることを目的に測量調査を実施した。今年度調査においては丘陵北半部を中心にトレンチを入れたが、遺跡の性格が明確となる調査結果は得られなかった。また縄文時代・古墳時代・古代・中世の遺物が出土した。

南陽市埋蔵文化財調査報告書第 22 集

南陽市遺跡分布調査報告書（9）

市内遺跡分布調査

第三次長岡南森遺跡確認調査（概報）

2021 年 3 月 31 日

発行　南陽市教育委員会
〒 999-2292　山形県南陽市三間通 436 番地の 1
電話　0238-40-3211 ㈹
印刷　有限会社文進堂印刷
〒 999-2221　山形県南陽市椚塚 811 番地の 3
電話　0238-43-2116